建築と社会

特　集

● 私の空間作法

11
1999

日本建築協会

日本建築協会企画・販売

出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

＊

購入希望者は、㈳日本建築協会事務局（TEL06－6348－0635、FAX06－6348－0634）まで。

日本建築協会創立60周年記念事業

建築技術選書

A５判・130頁～160頁　発行:学芸出版社　本体価格¥1,200～¥1,400

1 茶室の話　岡田孝男
3 マイコンによる構造設計のすすめ（改訂版）　魚木晴夫
5 すまいの語録　茶谷正洋
7 構造計画とやさしい力学 1　須賀好富
8 建具の知識と意匠　山片三郎
9 エレベータ・エスカレータ 立体駐車場　木村利雄
10 構造計画とやさしい力学 2　須賀好富
13 医院・診療所の計画と設計　池田有隣・船越曄由
14 設計のコンピューター手法　飯塚英雄
16 石垣と石積壁　窪田祐
17 基礎と地盤の手ほどき　中堀和英
18 ショッピングセンターの計画　西脇顕正
19 住宅設計とインテリア　福岡喜久雄
21 住宅の家具　光藤俊夫
23 設備技術者のための建築再入門　光安義光
24 鉄骨構造の話　金多潔・甲津功夫・西沢英和
26 建物と地震災害　竹内吉弘・島田耕一
28 建築金物の知識　立野一郎
30 住宅三備心得帳　平田純一
31 住宅のエレクトロニクス　監修　小林郁
32 建築塗装の手引き　児島修二
33 建築式典の実際　若林嘉津雄
34 建築設計と高齢者・身障者　吉田あこ
36 日本壁　山田幸一
37 身近な耐震設計法　前川陽一
38 住宅の照明　監修　大島博
39 建築を志す人びとへ　日本建築協会出版委員会

特装本
火災安全学入門　岡田光正

選書シリーズは、在庫図書を掲載

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇

〈プロのノウハウ〉シリーズ

四六判２色刷り　発行:学芸出版社　本体価格¥1,600～¥2,500

TQCから見た建設業　荒木陸彦
躯体工事監理のチェックポイント100　須賀好富
空調設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
衛生設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
現場マンのアイデア発想　合原一夫
建築基準法の実際　矢吹茂郎
ニュー組積建築のすすめ　福島孝之　他
建築物の消防法を読みこなすコツ　高木任之
鉄筋工事・本音の現場学　荒川治徳
建築基準法の難解条文を読みこなすコツ　高木任之
工業化住宅・考 これからのプレハブ住宅　松村秀一
鉄骨工事の現場学　石田満廼
建築紛争の実際　岡本辰義
仕上工事監理のチェックポイント　日建設計監理業務研究会
ゼロ災への道 建設現場の安全管理活動　表　一郎
木造住宅のしくみ 在来工法の基本と応用　浅野平八・東　敏博
コンクリート工事のチェックポイント100　加賀秀治
インテリアコーディネートの100ポイント　町田ひろ子監修／松本　茂・村元俊子著
新版 建築基準法を読みこなすコツ　高木任之
木づくりの常識非常識　上村　武
建築関連法規を読みこなすコツ　高木任之
都市計画法読みこなすコツ　高木任之

日本建築協会創立70周年記念事業

選書特装版

B５判　発行:学芸出版社　本体価格¥2,800～¥3,800

構造コストと経済設計　須賀好富
新・建築と設備の接点　宮脇　毅・南部　武
建築設備の健康診断　牧野　茂
外壁構法チェックリスト　飯塚五郎蔵
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築篇〉　「建築漏水」編集委員会
建築・都市・住宅・土木ー情報アクセスブック　菊岡倶也
建築デザインのための構造計画　須賀好富
場所打ち杭の設計と施工　阪口　理
建築と緑　瀧　光夫
入門・建築積算　生島道春
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備篇〉　「設備漏水」編集委員会

昭和生まれ　関西の建築家50　1987年

A４判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念

講演記録集 **話のはなし**　1997年

B６判５分冊　企画:日本建築協会建築クラブ　１セット5,000円（消費税別）

民間（旧四会）連合協定

工事請負契約約款　A４判のみ取り扱い

工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項
１部¥230（消費税含）送料 実費

日本建築協会創立70周年記念出版

住宅近代化への歩みと日本建築協会　1988年

A４判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版

工高生デザインコンクール入選作品集　1992年

A４判　企画・発行：日本建築協会　定価2,000円

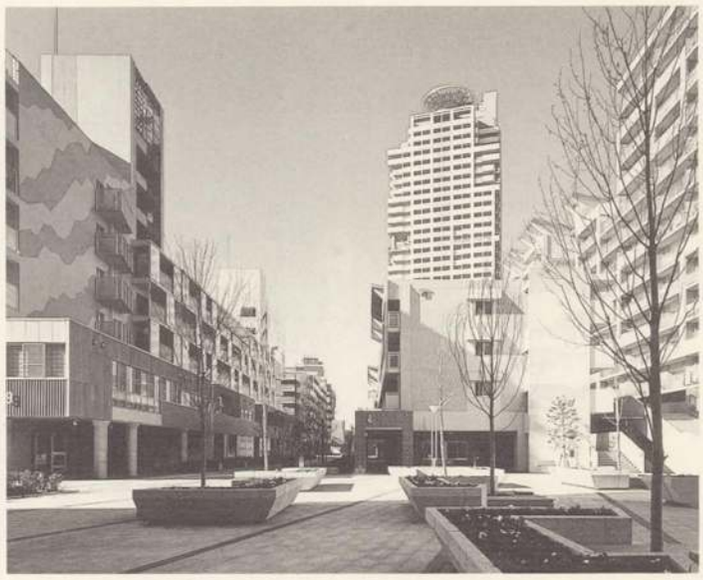
日本建築協会創立80周年記念出版

建築を志す人びとへ

A５判　日本建築協会出版委員会編著　本体価格1,800円

東部新都心
HAT神戸・灘の浜デザインフォーラム
—集住体で街をデザインする—
（再掲）

日　時　1999年11月20日(土)
14:00—16:30
会　場　兵庫国際プラザ・セミナールーム1
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1
国際健康開発センタービル3F
＊「HAT神戸・灘の浜」の西隣
＊阪神「岩屋駅」徒歩約7分
JR「灘駅」徒歩約10分
パネリスト　遠藤剛生／遠藤剛生建築設計事務所
(50音順)　「街並みの変化と調和」
佐々木葉二／鳳コンサルタント・環境デザイン研究所
「ランドスケープデザイン」
中嶋龍彦／中嶋龍彦建築設計事務所
「都市スケールのデザインと街並み」
定　員　50人＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般2,000円
学生は半額、税込
申　込　11月12日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：HAT神戸・灘の浜デザインフォーラム
②氏名
③個人会員、団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を11月15日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
事業委員会情報小委員会
担当主査：川村眞次／関西都市整備センター
小笹光彦／ランテック計画事務所
協　賛　㈱松下電工



阪神・淡路震災復興計画のシンボル・プロジェクトと位置づけられている神戸東部新都心の全容がようやく明らかになりつつある今、第1期住宅建設プロジェクト「東部新都心　HAT神戸・灘の浜」はほとんどの工事が完了、超高層住宅の入居も8月に開始されるに至り、大きな峠を越えた感があります。デザインの手法としては、西側の「脇の浜」は安藤忠雄先生が誘導するマスターアーキテクト方式を採用したのに対し、当該地はデザイン調整会議において多くの設計者が互いに話し合い、協調しながら設計を進めるという手法を取ったことが特色で、これらはいずれも今後の街づくりを進める上でのモデルプロジェクトになるだろうと思われます。そこで、この機会に当該プロジェクトの総括を行う意味合いにおいて、現地にてアーバンデザインやランドスケープデザイン、建築設計等のデザインプロセスを顧み、結実した成果を論議することにより、街づくりのデザインのありようを、フォーラムというイベントを通して共に考えたいと思います。

当日は、まず設計の経緯を紹介し、次いで本来は設計者全員にパネリストとしてお話しいただきたいところですが今回は代表して3人からお話しいただき、最後にディスカッションタイムとして設計者全員にお話しいただく予定です。

と同時に、参加者にも発言していただきたいと考えていますので、多くの方の参加をお待ちしています。

尚、フォーラムに先立ち現地を下見していただければより充実した論議が展開できると思いますのでよろしくお願いいたします。　（川村眞次）



事業主体　住宅・都市整備公団
事 業 者　兵庫県、神戸市、住宅・都市整備公団
住宅種別　従前居住者用賃貸住宅
災害公営住宅
デザイン　遠藤剛生、奥井正造、北川フラム、
(50音順)　佐々木葉二、清水忠義、杉立利彦、
仙元清嗣、中嶋龍彦、新美文孝、
橋本健治、堀江　達、川本得信、
川村眞次、山田正司、山田喜朗、
山本一晃
敷地面積　61,962.72㎡
構造階数　RC・SRC、4-14F・31F・33F
戸数形式　1886戸、1DK-4LDK
駐 車 場　1223台
工　　期　1996年3月～1999年8月

近代建築見学会

第10回

旧平賀邸を訪ねる

（川西市郷土館）

（再掲）





前回訪ねた旧谷口房蔵邸と並ぶ大正期の典型的な西洋館、旧平賀邸を訪ねます。明治初期に英国へ留学し、化学を学び、近代工業のさまざまな分野に貢献した平賀義美博士が、大正７年に川西の猪名川べりに建てた邸宅および実験研究室です。英国のカントリー・ハウス風といわれる西洋館は、設計者松本禹象（明治39年大林組入社、初代の設計部長）のほとんど唯一現存する洋風邸宅建築とみられているものです。この西洋館が平成２年に移築再建されている川西市郷土館は、当地での製錬業の歴史を伝える平安邸・製錬所跡を保存活用して開館されたもので、和風民家の平安邸も大正中期における大規模な近代和風建築として見所の多い建築であり、平成８年に旧平賀邸とともに登録文化財となっているものです。

（山形政昭）

日　時　1999年**11**月**13**日(土)
14:00―16:00

見学先　旧平賀邸ほか（川西市郷土館）
兵庫県川西市下財町4-1
＊能勢電鉄「山下」駅より徒歩約15分

講　師　山形政昭／大阪芸術大学教授

定　員　30人
＊申込多数の場合は抽選

参加費　会員 1,500円、一般 2,500円
学生 1,000円引、入館料・税込

申　込　ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：近代建築見学会
②氏名
③個人会員･団体会員･一般の別
④職場･学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を11月８日(月)に発送します。

申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001

主　催　㈳日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：小林一成／鴻池組

まちなみ見学会

第3回

大津市坂本

石積みのある門前町

（再掲）

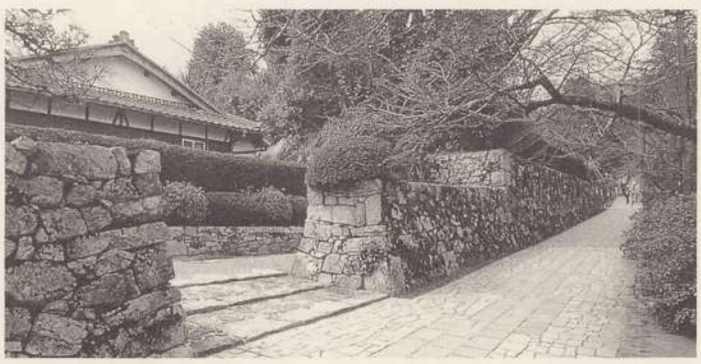
大津市坂本地区は、優れた美しい自然と数多くの歴史的文化遺産に恵まれ、先人達の永年の努力と蓄積が今日まで継承されてきたところで、当地独自の里坊群などが歴史的空間を形成している。

里坊は、比叡山で修行を続けていた僧が高齢になって山麓（里）に賜った隠居所のことで、建造物などは江戸時代中期から明治・大正・昭和（昭和20年以前）時代にかけて建てられたものが多く見受けられる。

里坊は道路に面して門を構え、穴太衆積みの石垣と塀あるいは生垣に囲まれ、建物は奥まったところに建てられている。各里坊にある庭園は、広々とした空間と緑を演出し、特に歴史的・芸術的価値の高い10庭園が、平成10年に国の名勝に指定されている。

町家の町並みでは味わえない奥行きのある豊かな環境で、堂・本堂・灯篭・鳥居・道標・樹木・小水路などを含め、全国的にも貴重な歴史的景観を形成している。

このような里坊の町並みを紅葉の盛んな錦秋あでやかなときに歩いてみませんか。



日　時　1999年**11**月**27**日(土)
10:30―17:00

講　師　吉水眞彦／大津市教育委員会
文化財保護課課主幹

見学先　滋賀院門跡・慈眼堂
宝積院、雙厳院、旧竹林院
（庭園は国の名勝に指定）
山王総本宮日吉大社
（本殿は国宝、その他重文多数）

集　合　京阪「坂本駅」前
＊JR「比叡山坂本駅」より徒歩10分

昼　食　自由
＊鶴喜そば座敷予約

定　員　30人
＊申込多数の場合は抽選

参加費　会員 2,500円、一般 3,500円
＊学生1,000円割引
＊入園料、お供えを含む

申　込　11月17日(水)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:まちなみ見学会
②氏名
③個人会員･団体会員･一般の別
④職場･学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を11月18日(木)に発送します。

申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001

主　催　㈳日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：松本　剛／大阪府

ホテルモントレ大阪見学会



本物志向のクラシックホテルとして展開するモントレシリーズ第7作目として大阪梅田オオサカ・ガーデン・シティに建設されている。今回は、ウィーンを中心としたハプスブルグ帝国にテーマを設定し、この時代の持つ精神・様式を、意匠及び空間構成上積極的に取り入れている。

外観はマリアテレジアイエローを基調としたウィーンの伝統的な配色を採用し、また建物ファサード及び建築エレメントに対しては、様式についての厳密な検討を行っている。メインとなる8F中庭階には、現存する小さなゴシック教会を再現した。この教会を取り巻く形で、広場、回廊、カフェ、レストラン、城壁跡を配置し、ヨーロッパの街が教会を核として成立してきた歴史を表現している。

内部は、部屋と部屋の連続で形成されるヨーロッパの邸宅をベースとした空間構成としている。またステンドグラス、アンティーク家具、絵画等をヨーロッパ現地にて調達し、“絵になるシーン”が様々な形で想起されるように設計を行っている。　（伊藤直幸）

●建築概要
所在地　大阪市北区梅田3-1002
設　計　レールシティ西開発・日建設計（大林組）
監　理　レールシティ西開発・大林組
施　工　大林組・大本組JV
敷地面積　2,644.33㎡
建築面積　1,845.80㎡
延床面積　23,344.52㎡
構造規模　S・SRC、B2・14F・P1
工　期　1997年9月～2000年2月
オープン　2000年5月1日（予定）

日　時　1999年12月15日(水)
14:00―16:30
講　師　伊藤直幸／大林組設計部
入江　修／RC西梅田JV統括所長
山口昭明／ホテルモントレ大阪JV副所長
集　合　現地／大阪市北区梅田3-1002
オオサカ・ガーデン・シティ内
定　員　60人＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般2,000円／税込
申　込　12月8日(水)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名:ホテルモントレ大阪見学会
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を12月9日(木)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
事業委員会見学会小委員会
担当主査：逸崎三郎／大林組

第45回工高生デザインコンクール入選者発表

― 設計課題：道の駅 ―

日本建築協会主催による平成11年度の標記コンクールの入選者が、右記のとおり決定いたしましたので発表します。なお、入選作品は平成12年1月号に掲載いたします。

●応募校数／32校
●応募作品数／121点

	氏　名	学　校　名	学年
入選・最優秀賞	南雲　智則	群馬県立前橋工業高等学校	3年
入選　優秀賞	川津かおり	大分県立日田林工高等学校	3年
入選　優秀賞	小林義人	三重県立四日市工業高等学校	2年
入選	北原慎也	大阪市立工芸高等学校	3年
入選	和田千早	大阪市立都島工業高等学校	3年
入選	蜂須賀啓泰	京都市立伏見工業高等学校	3年
入選	佐藤智子	静岡県立静岡工業高等学校定時制	4年
入選	前田洋輔	私立名古屋工業高等学校	3年
入選	尾形亮	北海道函館工業高等学校	3年
入選	福岡学	三重県立四日市工業高等学校	3年

順不同・敬称略

'99建築関係団体合同忘年懇親会

日　時　平成11年12月14日(火)
午後6時～7時30分
会　場　太閤園迎賓館
ダイヤモンドホール（ビュッフェ・スタイルのパーティー）
大阪市都島区網島町9-10
電話 06（6356）1111
会　費　8,000円
●11月26日までに事務局へお越し下さるか、現金送金にてお申込み願います。（土曜休務）
●申込者には忘年懇親会参加証をお渡しします。
定　員　400名

お願い
(1) 申込の際に氏名・勤務先をお知らせ下さい。
(2) 申込者で12月3日までに欠席の連絡がない場合は会費のご負担を願います。
(3) 当日は参加証を必ずご持参願います。

2000建築関係14団体合同新年交礼会

日　時　平成12年1月4日(火)
午後2時30分～3時30分
会　場　マイドームおおさか・3階
大阪市中央区本町橋2-55
会　費　5,000円（当日欠席されても会費をいただきます）
申　込　12月10日までに会費を添えて最寄り団体にお申込み下さい。
共　催　㈳日本建築協会　㈳大阪府建築士会　㈳日本建築学会近畿支部　㈳日本建築家協会近畿支部　㈳日本建築積算協会等

'99～2000年版 日本建築協会会員 名簿近く発行予定

'99～2000年度版会員名簿を12月上旬に発行予定です。この名簿は建築界に活躍される会員の現況（出身校・現住所・勤務先・所在地）を紹介するばかりでなく、官公庁・学校・関係諸団体のほか、建築事務所、建設、建材、設備その他関係業者の主要なものを業種別に収録しており、日常業務に大いに役立つものとおもわれます。

今回は発行部数を限定しておりますので、何卒お早目にお申し込み下さい。

なお、すでにお申し込みの方、営業案内欄掲載の各社へは、発行と同時に一部ご送付申し上げます。

体裁　B5判　270頁　本文上質紙

定価　3,000円（消費税含む）〒310円

※特価　2,500円（税・送料共）

（12月末日まで）

「日本建築協会80年史1917-1996」 本会図書室にて ご覧下さい!

平成９年度から編纂を進めてきた80周年記念事業の「日本建築協会80年史」が、本年７月末に刊行されました。

大正６年３月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、主催してきた各種事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念史として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。

この「80年史」は非売品ですが、会員のみなさまが閲覧できるよう、本会図書室に備え付けて開架しております。

どうぞご一読下さい。

■執筆ワーキンググループ
坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編纂委員会
長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二

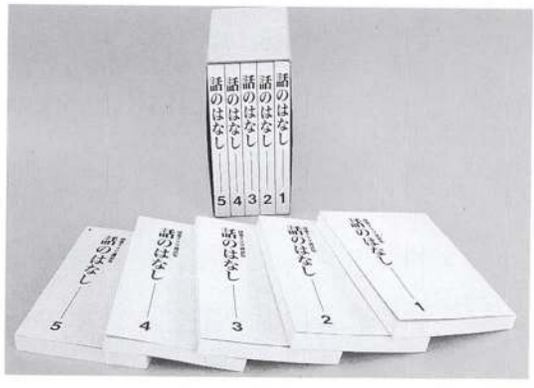


講演記録集 「話のはなし」残部 頒布します!

昭和47年6月に発足した「建築クラブ」（日本建築協会会員有志の集まり）は、毎月1回、大阪市内のホテルに学者やジャーナリストをはじめ政界・経済界・文芸界・スポーツ・芸能界など広い分野から講師をお招きして、お話を聞く朝食会を開いております。

1997年、この朝食会の第300回を記念して、講演速記録を集約し、最終的に118回分を5冊1セット（1冊平均約320ページ）の本に編集いたしました「話のはなし」の講話の内容はとても多彩で、「おもしろい話」「貴重なはなし」「裏ばなし」などがいっぱい詰まっています。

残部を建築クラブの格別のご好意により、1セット・5,000円（消費税別途）でおわけできることになりました。ご希望のかたは電話またはFAXでお申し込み下さい。



B6判　5分冊

申込先：日本建築協会事務局
TEL06-6348-0635
FAX06-6348-0634

建築と社会 11
1999
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第80集／通巻932号

今年の表紙
表紙デザイン　安里俊久

■特集予告
12月号／第46回青年技術者
1月号／21世紀のデザインの動向を見る
安井建築設計事務所創業75周年

編集委員会（平成11年度）
■副会長
金多　潔
葉貢　公明
■編集理事
荒巻　恭士
井上　豊
小島　雄
佐野　吉彦
竹中　統一
立野　一郎
真塚　達夫
松村　慶三
◎宮田　照久
山田　修
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
伊藤　憲幸
梅村　宏尚
小浦　久子
※鈴木　克彦
田中　直人
紅谷　昇平
松川　敏正
松田奈緒子
横関　真紀
吉村　英祐
★建築計画系
上杉　秀隆
江副　敏史
大村　昌聡
※荻窪　伸彦
菅野　忠司
笹村　欽也
佐藤不二男
桜井　則雄
塚本　史郎
服部　光宏
山本　匡
★インテリア・住生系
※石川　佳子
加藤　力
北浦かほる
小椋　吉隆
小島　保人
中田　誠
中村　孝之
中村　雅人
西田　和子
畑　康之
ベリー史子
水谷　美香
□構造分科会
岩永　速典
※大氏　正嗣
金田　興熙
河野　隆史
木下　隆嗣
岸本　一蔵
楠本　隆
佐治　明志
田中　剛
田辺　太一
陶器　浩一
松村　和夫
□設備分科会
梶井　宏修
河津　隆之
近藤　正一
田ノ畑好幸
西岡　道雄
野口　太郎
堀内　一夫
桝井　貴廣
村上幸三郎
※谷津　和久
山根　敏和
□施工材料分科会
植田　実
※小椎八重猛
太刀川丈爾
十倉　毅
能美　敏男
野口　幸忠
福井　茂和
□法令分科会
池口　和雄
亀谷　周二
黒木　省二
椎名　辰之
田村　俊郎
※浜野　幸雄
■作品作風小委員会
赤木　隆
秋山　茂
朝倉　一晃
川上比奈子
倉渕奈千子
杉本　浩
寺岡　宏治
中村　文紀
藤城　義丈
△前川　治彦
牧野　雅一
増田　敬彦
増田　俊哉
山田　俊紀
■会員企画小委員会
稲木　裕子
大谷由紀子
河崎　敦子
高岡　伸一
髙田　光雄
高橋　麗子
△塚口　明洋
辻川ひとみ
土田　伸二
福田　瑞穂
■広告企画小委員会
△岩井　武夫
小幡　義明
加納伸太郎
家森　康彰
勝　一弘
小山　昭
斉藤　治久
武田　修示
平松　勉
前田　衛
渡邊　浩文
◎委員長　△副委員長　※幹事

印刷　平成11年10月25日
発行　平成11年11月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定価　1200円〔本体価格1143円〕

CONTENTS

特集● 私の空間作法—会員作品—

大阪弁天町アトーレ●久保清一 — 20
O社小林機材センター●前川治彦 — 21
千里丘の家●歌　一洋 — 22
桜井の住宅●阿久津友嗣 — 23
K's CUBE●岡崎 善久 — 24
Y-court●小南一郎 — 25
アーバネックス住之江●田中啓文 — 26
木津リニアプラザ●長谷川弘直 — 27
京都・西賀茂の家●長瀬博一 — 28
ゆの宿峡里（かいり）●菅沼　稔 — 29
八尾の家●新居照和&ヴァサンティ — 30
三国ヶ丘の家●吉村篤一 — 31
リトルハウスバギー●笹木　篤 — 32
岩国運動公園展望休憩所●村重保則 — 33
づぼらや新世界店別館●池上　明 — 34
岡山　吉備路の家●上谷重男 — 35
竹巧居・公長斎小菅ビル●志村公夫 — 36
遊ゆう　かぼちゃのお家●吉村英祐 — 37
あやめ池の家●森川哲治 — 38
SK邸●槃木康次 — 39
光明院庭園ライトスケープ'98秋●村上幸三郎 — 40

会告 — HAT神戸・灘の浜デザインフォーラム.近代建築見学会⑩旧平賀邸を訪ねる.まちなみ見学会③大津市坂本.ホテルモントレ大阪見学会.第45回工高生デザインコンクール入選者発表.'99建築関係団体合同忘年懇親会.2000建築関係14団体合同新年交礼会.'99～2000年版日本建築協会会員名簿近く発行予定.「日本建築協会80年史」本会図書室にてご覧下さい！.講演記録集「話のはなし」残部頒布します！ — 1

作品作風
兵庫県立但馬長寿の郷 — 6
神戸防災合同庁舎 — 10
香川県立医療短期大学 — 12
熊取ふれあいセンター — 14

gallery — 内側から展く家（秋田憲司）●川上比奈子 — 16

建築の眼 — ライフスタイルが支える住環境●鈴木克彦　上新田のとんど祭り●西川靖一　建築の強さ●前川治彦　中華思想と辺境民族●七字祐介 — 18

GBRCニュース — 確認検査業務の開始について — 41

法令コーナー — 住環境を守る条例、制度—京都市と神戸市—
・京都市中高層建築物等の建築に係る住環境の保全及び形式に関する条例の施行●芦田直樹
・建築確認の民間開放に伴う神戸市事前届出制度の創設●竹田衛吾 — 42

素材と技術が生み出すデザイン — 「水」—故事を読む●大氏正嗣 — 44

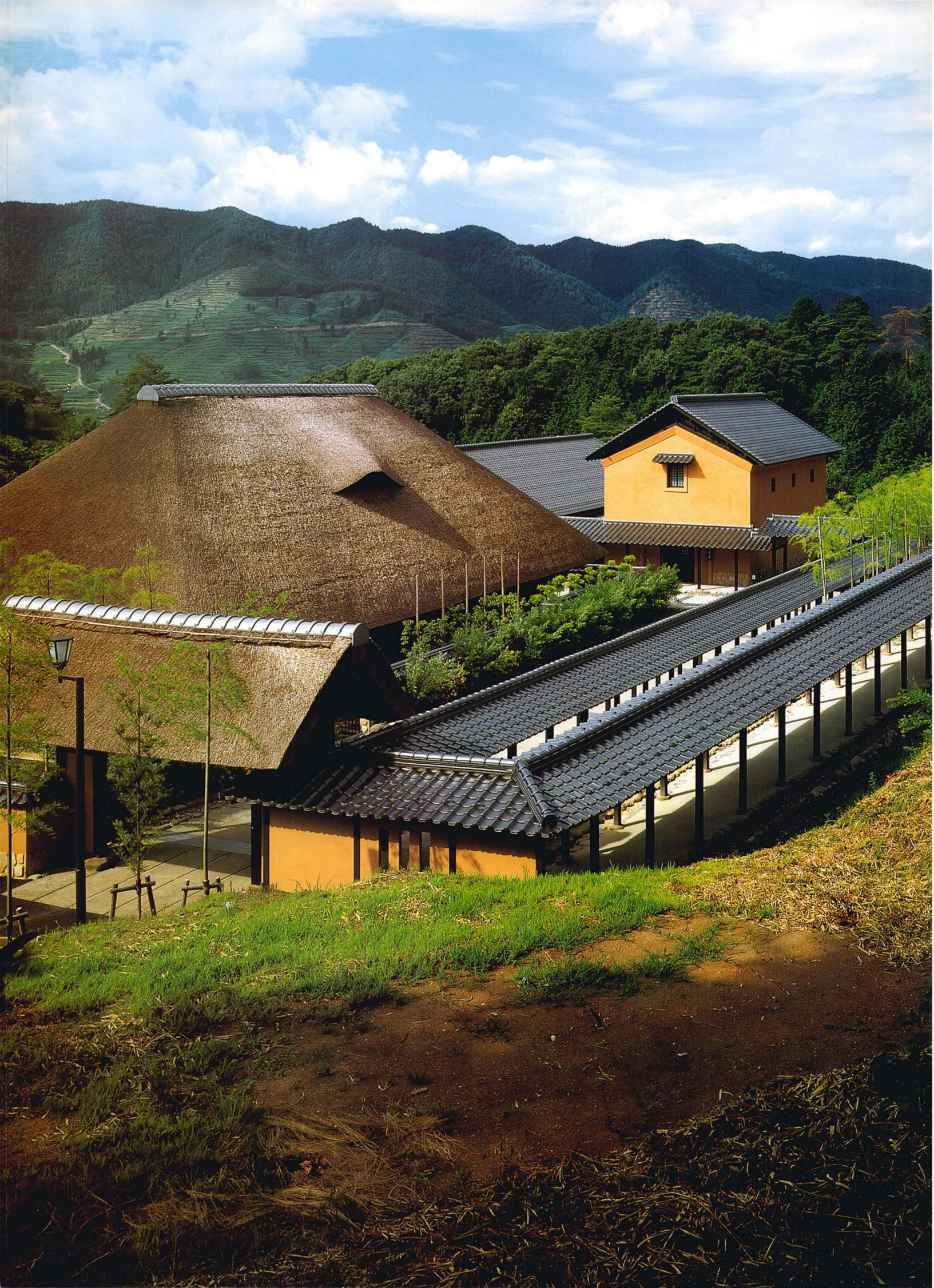
設備の頁 — 平板プリズムを用いた太陽光採光装置●髙橋一夫 — 46

施工材料の頁 — 大型建材タイルの乾式工法●茶屋徹夫 — 48

基礎講座 — 二酸化炭素消火設備●由上雅章 — 49

新建材の頁 — 地下構造物止水 — 50

information — ART BOX NAGOYA'99開催.村野藤吾建築設計図展とシンポジウムを京都工芸繊維大学で.札幌国際デザイン賞「夢のある札幌をデザインする」をテーマに.2005年日本国際博覧会国際アイデアコンペ入賞作品決まる.コイズミ学生照明コンペ公募.基準法第86条認定基準を制定.国際シンポジウム—国際空港と環境・地域との共生をめざして—.「住まいのなるほどセミナー」市民を対象に開講.ロレアル賞連続ワークショップ'99—色をワークする—.'99建築プロフェッショナルセミナー.建築研究所秋季講演会.「メディアテークがめざすもの」. — 51



作品
作風

設計監理■
兵庫県まちづくり部営繕課

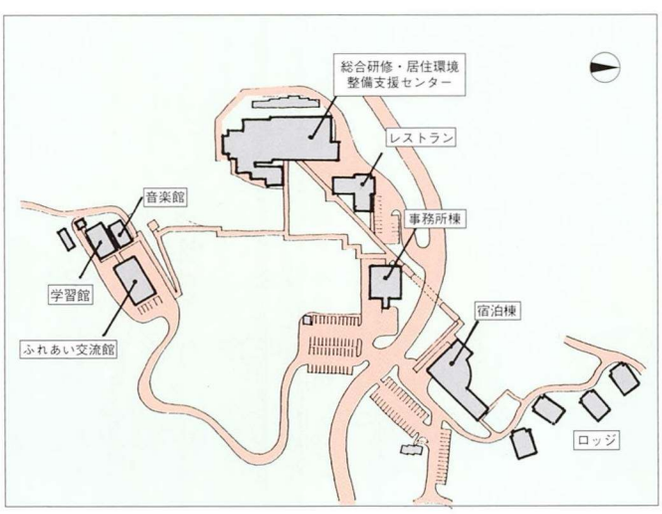
施工■
明生建設、福井建設、南但土木建築、藤原工務店

兵庫県立但馬長寿の郷

但馬の医療・保健・福祉を総合した地域の拠点施設。高齢化社会に向けた県下初めての試みで、住宅改造モデル、福祉機器を展示しながら、介護や住環境整備支援、研修を主な活動としている。また、日本の民家を想起させる茅葺き屋根で囲炉裏のある交流館や土蔵風の音楽ホール、ハナレとしての陶芸・木工などの学習館、宿泊施設・ロッジ（100人）も併設し、都市と農村の交流を促進させようとしている。

里山風景を持ったこの丘陵地で、自然環境や生態系を保ちながら“福祉のまちづくり”を目指した。造成を最小限に抑えるため建物は小規模分散化し、そのネットワークは、町道で南北に分断された敷地をつなぐトンネルや、雨・雪対応の渡り廊下を巡らすことでバリアフリーも同時に確保した。その地域になじむ材料として、土、石、木、茅、紙といった自然の素材にこだわり、今日では忘れかけていたものを想起させようとした。

（植田吉則・黒田達雄／兵庫県営繕課）



配置図　1：4500

所 在 地 ——兵庫県養父郡八鹿町大字国木字中山594-7他
敷地面積 ——144,900㎡
建築面積 ——　5,836㎡
延床面積 ——　7,964㎡
構造規模 ——RC：1～2F、W：1～2F
工　　期 ——1997年３月～1998年11月
最 寄 駅 ——JR山陰線・八鹿駅
撮　　影 ——東出清彦


▲江戸初期の日本の民家を再現した交流館


▲茅葺の交流館と土蔵風の音楽館

▼枯山水から居住環境整備支援センターを見る

















左頁．支援センターの重合する屋根と連山
1．事務所棟からレストラン棟を見る
2．レストラン棟と渡り廊下と水盤
3．支援センターホール吹き抜け
4．宿泊棟アプローチ
5．宿泊棟からロッジ棟を見る
6．レストラン棟・支援センター・回廊・中庭





作品
作風

設計■
近畿地方建設局営繕部、坂倉建築研究所

監理■
近畿地方建設局神戸営繕工事事務所

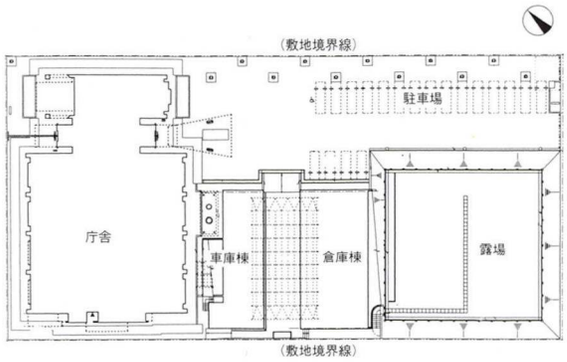
施工■
松村組

神戸防災合同庁舎

東部新都心計画（HAT神戸）は、大規模工場の遊休化が進んでいる臨海部の土地利用変換を図り、阪神・淡路大震災により甚大な被害を受けた住宅や産業等の受け皿となる市街地復興の先導的役割を担っている。そのほぼ中央に建つ神戸防災合同庁舎は、建設省の震災に強い街づくり構想の一環として、平常時にはサービスを行い、災害時には広域的な防災活動の支援を行う拠点となるよう計画された。その機能を維持するため基礎免震を採用し、災害時には指揮・指令・待機の代替執務空間となる防災会議室・多目的ホール・展示ホール（平常時は一般に開放）を設けている。インフラ・設備についても電源・公衆通信網の確保はもとより、一つのエネルギーが断たれた場合でも別のエネルギーによる冷温熱の供給が可能なシステムを導入している。給排水設備では上水、雑用水それぞれ十分な備蓄タンクと雨水利用設備、海水淡水化設備（井戸から汲み上げた海水を飲料水等に利用）、公共下水道への排水が不能になった場合に備え数日間貯留できる排水槽を設置している。

街なみ形成において、市民に開かれたウォーターフロント空間づくりの先駆となるよう水際空間から六甲山景へとつながる視覚の通り抜けを重視した施設計画を行った。海と山を分断する長大な壁面の連続を防ぐため執務スペースとコア部分を切り離し、南北に抜ける吹き抜けホールを設けている。敷地境界にはフェンスを設けず、敷地内を自由に通り抜けできる並木道をつくり、駐車場も歩道と同じ仕上げとして水際広場と連続したプラザになるようにした。

（薄田球一／近畿地方建設局営繕部）



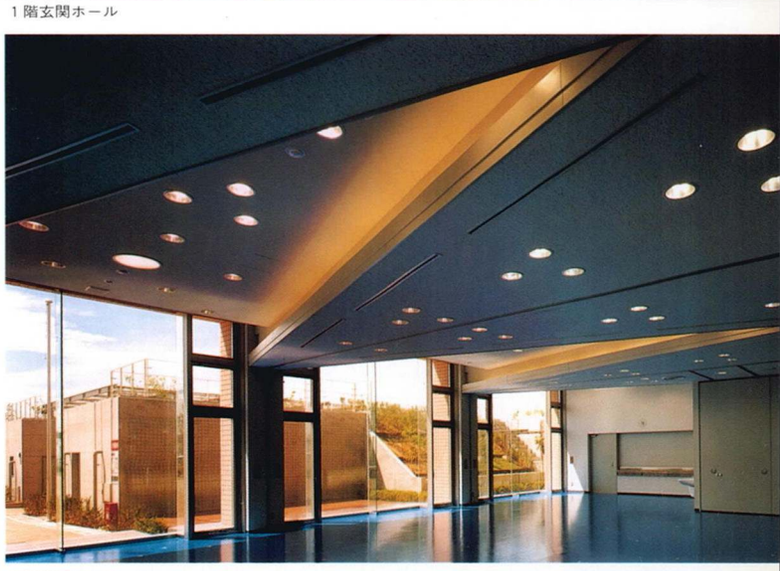
配置図　1：600

所 在 地 ——神戸市中央区脇浜海岸通1-4-3
敷地面積 ——4,000.00㎡
建築面積 ——1,252.35㎡
延床面積 ——6,091.83㎡
構造規模 ——RC（一部S）、8F
工　　期 ——1998年３月～1999年７月
最 寄 駅 ——阪神電鉄・春日野道駅
撮　　影 ——河合止揚（左頁）、伸和（右頁）

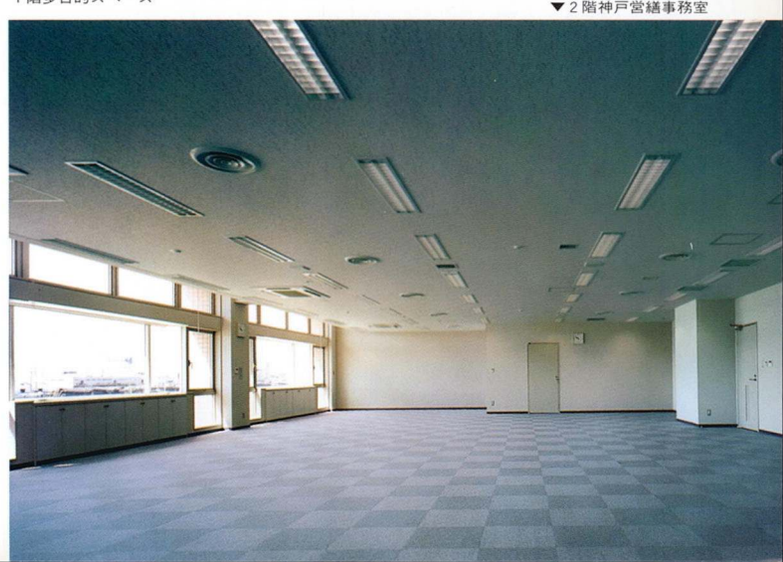

南面外観



1階玄関ホール


1階多目的スペース

▼2階神戸営繕事務室





作品
作風

設計・監理■
香川県土木部建築課
久米設計

施工■
（講義棟）穴吹・河西建設共同企業体
（実習棟）谷口・坂出建設共同企業体
（管理研究棟）菅組

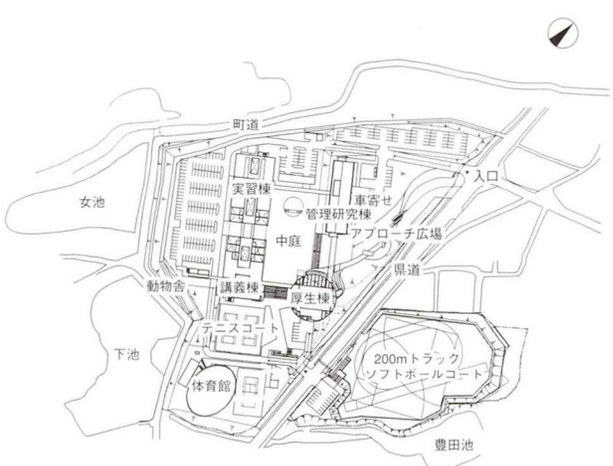
香川県立医療短期大学

香川県は、生命の尊厳を基盤とした深い人間愛と専門知識・技術を身につけ、社会的使命を生涯にわたり探求し続けることができる医療従事者育成のために香川県立医療短期大学を設置された。敷地は高松市の東約10kmの牟礼町に位置し、瀬戸内海の志度湾を望む丘陵地にある。ゆるやかな段状の水田、雑木に覆われた小山、ため池、緩やかな山並、瓦屋根の民家、そして瀬戸内のおだやかな海等が豊かな景観をつくっていた。大学としての風格と機能を備えながら、この豊かな景観との調和を図ることが設計上のテーマであった。

例えば、「景観イメージを継承して、いくつもの地盤レベルを設定したうえで小山等の土地の記憶を建物に置きかえる。」「交流拠点として位置づけた中庭を中心に、低層化した施設を分配配置することで、この地の豊かな光と風の通り道をつくる。」「施設のあらゆる場所から志度湾が多様な表情で感じられる構成とする。」などの方法でこの実現を目指した。

この大学から巣立ってゆく学生達が、医療技術のみならず豊かな人間性を身につけて欲しいと思うと共に、この大学が世代を超えて交流するにふさわしい場として愛され続けることを願う。

（小西威史／久米設計大阪支社）



配置図　1：6000

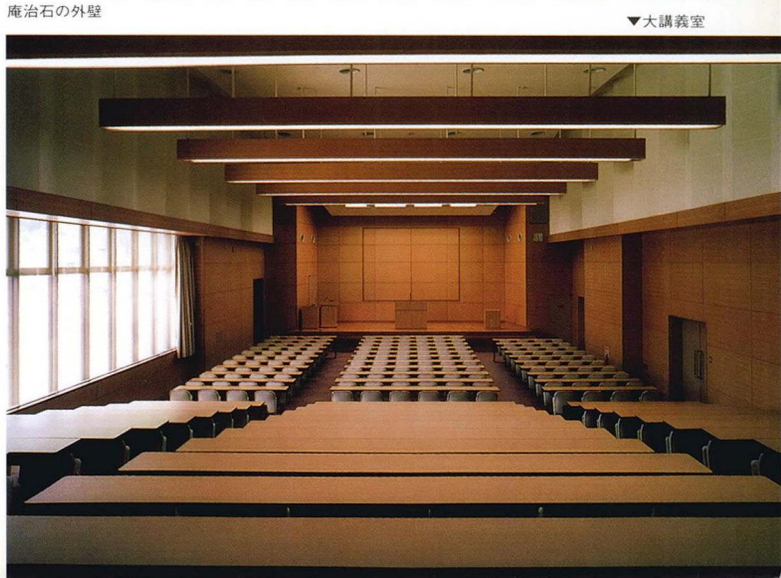
所 在 地 ——香川県木田郡牟礼町原281-1
敷地面積 ——50,712.66㎡
建築面積 ——　7,658.50㎡
延床面積 ——15,776.05㎡
構造規模 ——RC（一部SRC、S）、4F
工　　期 ——1997年10月～1999年３月
最 寄 駅 ——JR高徳線・志度駅、琴平電鉄志度線・原駅
撮　　影 ——㈲アラ井建築写真事務所

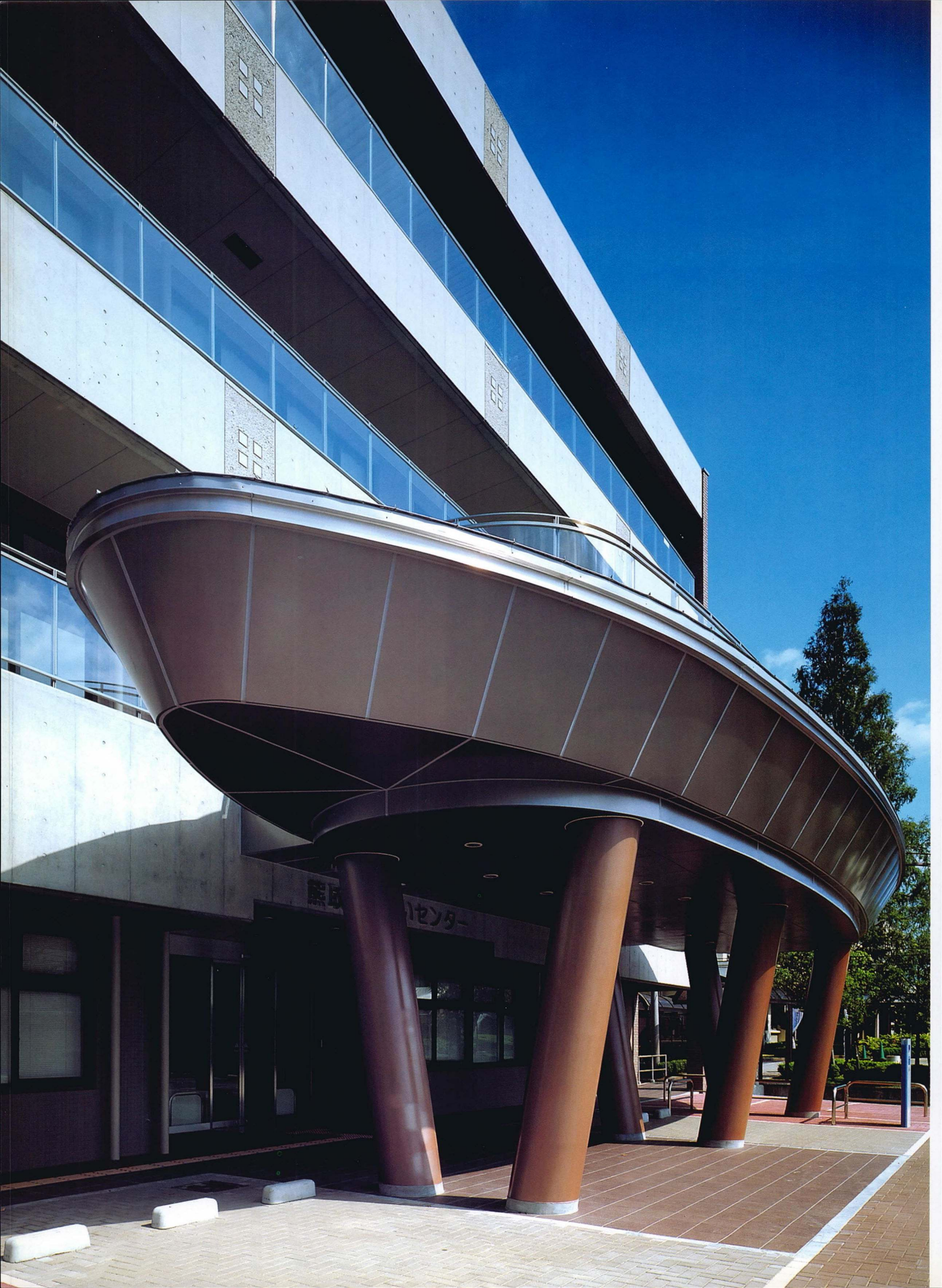
◀渡り廊下から志度湾を望む


校舎全景


中庭


庵治石の外壁


▼大講義室



作品
作風

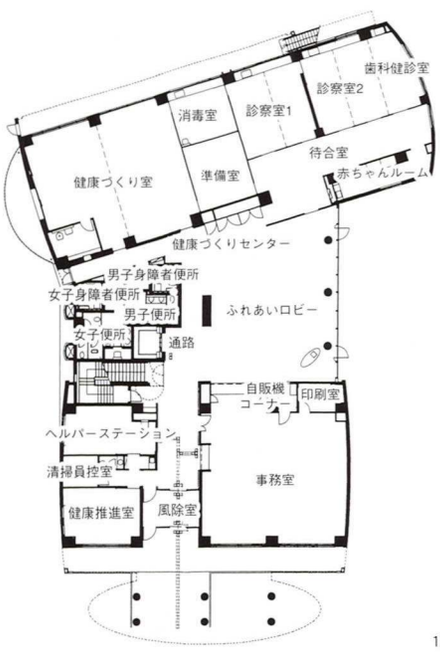
設計監理■
久米設計大阪支社

施工■
フジタ

熊取ふれあいセンター

大阪平野の南部に位置する熊取町は、関西国際空港を望む丘陵に位置し、大阪のベットタウンとして人口の増加の一途をたどっている。近年はスポーツ、文化施設が充実し、さらに住民福祉の一環として、総合保健福祉センターの設置が決定した。敷地は、町役場と公民館に隣接し住民の利用しやすい立地となっている。当社は、1997年末におこなわれた、プロポーザルにより計画に参画し、住民が利用しやすく、親しみやすい建物を目指して98年３月実施計画を完了し、議会決定を経て、98年７月着工、99年８月に竣工した。
建物は施設全体の中心となる２層吹き抜けのロビーを、北棟と南棟が挟む形状とし、構成の分かりやすさを追求した。外観の緩やかな曲面で、"優しさ"を表現し、飽きのこない外壁タイルを選定した。
最上階に住民交流の場として、庭園に面したサロンを設けている。
各階ごとに設けられた屋上庭園には、高低差の大きく変化に富んだ熊取町の植生を題材にした、植物が植えられている。
この施設が、地域住民の健康の拠点となることを、そして、訪れる住民のみなさんの心のふれあいの場所となることを願う。

（木下卓哉／久米設計大阪支社）



1階平面図　1：600

所 在 地 ―― 大阪府泉南郡熊取町野田
敷地面積 ――2,152.78㎡
建築面積 ――1,103.34㎡
延床面積 ――3,185.49㎡
構造規模 ――RC、4F、B1F、PH1F
工　　期 ――1998年７月～1999年７月
最 寄 駅 ――JR阪和線・熊取駅
撮　　影 ――河合止揚（左頁）、伸和（右頁）



北東側外観


正面外観


3階屋上庭園


▼1階ふれあいロビー

◀エントランスキャノピー（上部は、すこやかルームに接したひまわりデッキ「幼児の遊戯スペース」）

gallery

内側から展く家

設計
秋田憲司

この家には玄関らしきものがない。最小限の開口部しか持たない外観は、グルリと一周しても入り口のわからない大木の根本に似ている。幹にポッカリ開いた洞（うろ）のような扉から内ににじり込むと、いきなりアトリエの土間空間、その向こうに中庭デッキ、そして居間を見通すことができる。クライアント夫妻の表現を借りれば、「おむすびコロリンの異相空間」が開かれる。

キッチン兼ダイニングの上部吹き抜けには、日常空間を隔てながら寝室に繋がるブリッヂが渡されている。二つの世界の橋懸かりでもある。そして橋の更に上からは光が降り注ぐ。中庭デッキ上部に切り取られた空からは、四季の太陽光が日時計のように家の中を回り込む。同様に風も回りながら吹き上げられるので、それらに合わせて、植物たちはらせんを描きながら伸びていく。

各部屋の境界は曖昧で、住み手のニーズに合わせてフレキシブルに変換できる。スペースの利便性と無駄を日々交換しあいながら、住み手も異相空間内をぐるぐる回りながら生活することになる。彼らは、内なる解放（本来のリラクゼーション）の展開を試みながら、植物たちとともに暮らしているという。



秋田憲司（あきた けんじ）
1959　兵庫県生まれ
　　ハウスメーカー、不動産会社を経て父の事業を引き継ぐ
1988　秋田ハウジング㈱代表取締役就任
　　現在に至る

撮　影―絹巻　豊
企画編集―川上比奈子（作品作風小委員会）







ライフスタイルが支える住環境

鈴木　克彦

広島大学で開催された今年の建築学会大会は「地球環境」が主テーマとして取り上げられ、各分野で研究協議が行われた。地球環境問題は複合的要因で生起し、建築分野だけで対応すべき問題ではないが、われわれ人間の行動規範のあり方が最も重要となることは確かである。

行動規範を育むのは、建築空間との係わり合いで養われたライフスタイルである。その点で、建設後20年を経過したタウンハウスを見て参考になる点が多々あった。戸建て住宅の機能を備えたタウンハウスは、首都圏では集合住宅の一種として居住されているが、関西では戸建住宅もしくは長屋の延長として捉えられているようである。床面積を増やす増築や戸別建て替え、用途変更などのケースはいずれも関西地区で見られたが、関東では物置を設置するだけでもトラブルの種になるという。

一方で、タウンハウスはマンション生活のような窮屈さもなく、戸建て住宅のように住環境がいつ悪化するかという不安もない。緑豊かな落ち着いた住環境の中でペットも飼えるし、ガーデニングも楽しめ、手入れの行き届いたコモンスペースは心を癒してくれる。住環境マネージメントの大切さを痛感したが、結局はライフスタイルを生み出す仕掛けがなければ、どんな謳い文句でも建築は意味をなさないことを示している。

京都工芸繊維大学大学院助教授・工博

上新田のとんど祭り

西川　靖一

豊中市上新田は、千里ニュータウンの中央部の除外地域である。昔は良質の竹の子の産地で有名であった。この春、上新田に住む友人の竹林へ竹の子掘りに誘われ、お土産に新鮮な竹の子を頂戴した。

上新田はマンションが林立し昔の面影はない。わずかに残されている竹林と狭い旧街道、保存されている木造の新田小学校に昔の上新田を見つけることができる。

人口は旧住民５百人に対し新住民２万人で約40倍に増えたようである。その結果、竹林の手入れができないと嘆いていた。間伐した生竹を燃やすと「はじける音がうるさい」と言われ、乾燥竹を燃やすと消防車がとんできて始末書を取られるようである。竹林の隣では田んぼを持ちお米を作っている。これは、『上新田天神社』のとんど祭りに使うわらが必要なためだそうで、上新田の伝統文化を守りつづけているのである。

隣接するニュータウンには住居系の土地利用ばかりで、農業系の土地利用はない。友人の竹林は、生産緑地地区として指定されているので、当分は維持管理されるであろうが、いつかは住居系の土地利用になるだろう。そのときに、とんど祭りがどうなっているのか心配である。

神戸市住宅局参与

建築の強さ

前川　治彦

むかし読んだ本で森田慶一先生の次の一文が印象に残っている。

「建築は自然の破壊に抵抗する強さを持っていなければならぬ。」（森田慶一著「西洋建築入門」はじめにより）

最近の建築は大変美しいけれど、何かひ弱な印象を受けるのは私だけだろうか。

機械の時代からエレクトロニクスの時代になり、建築の世界にも新しい感性や表現が現れてきたが、どうも強さとは逆の方向のようだ。新しい表現には私の感性も揺さぶられ、それらを否定する気は毛頭ないけれど、建築の強さを求める流れも、より成熟していって欲しいと思う。

カーンのソーク研究所を訪れた時の感動は忘れがたい。自然に対峙した構築物は毅然としてひたすら力強い。力強い故に自然というものの恵みを実感として受けられる。柔らかな自然に対峙し、硬くコンクリートの造形を立ち上がらせることによって、人間の知なる業に強さを与えているのだ。

やはり素晴らしい

前川治彦建築研究所

中華思想と辺境民族

七字　祐介

「文明の生態史観」（梅棹忠夫著）に「中華思想と辺境民族」の一章がある。ユーラシアの中央部を占める古代文明を担った地域、インドや中国、中近東の国家に共通してあるのは創生期から自分達が文明を造ってきたと言う優越性と尊大さに貫かれた中華思想であり、一方辺境に居て文明史には後出である日本や西欧が、封建制と幾たびかの革命を経験して歴史的必然として今日の文化水準を勝ち得ながら、本当の文化は他所で創られて来たと言う心理的な翳を引きずっていると言う。この章を読みながらインドその他の地域を大阪に、日本を東京に読みかえると可笑しかった。東京は封建制の膝元にあったし、維新以後もそれなりの中心にありながら未だに上方に対して控えめで、どこか気後れがあるような気がする。それが中世以前辺境にあった意識を引きずるものなのか如何なのか。一方、大阪のどこか非近代的で、中華思想を思わせるこのバイタリティは何だろう。歴史の中央にあってきた自信であるのか、商業中心で培われた個人主義のなせるものなのか。そして華僑ならず阪僑か、江戸のお笑いもいつしか息を潜めて上方のタレントにどのチャンネルもすっかり席捲されてしまった。古くはニュータウンもスーパーマーケットもノーベル賞もこちらからの発信でした。そういえばなんとかしゃぶしゃぶ迄、聖俗あわせて。

大成建設関西支店設計部長






私の空間作法

日本建築協会■会員作品特集

早いもので、当企画も本年で第６回を迎えることとなりました。今まで熱心に応募いただいた会員諸氏ならびに、支援くださいました本誌読者に深く感謝し、本誌関係者の一人として厚く御礼申し上げます。

本年の応募作品は総数21点、個人住宅、集合住宅を中心に、店舗、飲食店、倉庫のほか、プラザ、公園休憩所、ライトアップ等、多彩であり、力作ぞろいであるというのが最初の感想です。そのいずれもが、設計者それぞれの建築に対する熱い思いとこだわりが感じられ、会員皆さんの日頃の研鑽がうかがわれ、うれしく拝見をいたしました。規模も内容もそれぞれ異なり、またコストにも随分違いある中で、これら21作品を通じての印象を一言で申し上げれば、『奔放さ』といえるでしょう。こうした作品を通じて積極的に社会へ提言し参加することがいかに重要かを再認識させられました。

この特集が会員皆様の今後の仕事の参考になり、刺激となって、さらなる研鑽努力の契機となりますよう、またそれが社会参加につながっていくことを念願しております。来年も皆様のいっそうの積極的な応募となりますよう願ってやみません。

編集委員長　宮田照久

企画編集　作品作風小委員会

掲載順については、作品作風小委員会の編集方針により決めさせていただいております。

伝統素材の再構成

久保清一　アルキービ総合計画事務所



ファサードディテール・中庭に続くヴォイドとエントランス

この建物は、大阪の副都心構想・弁天町駅前開発事業地区の西隣りに位置する。用途は住居＋アトリエからなり、１フロアーにそれぞれが中庭を挟んで向かい合うといった都市における職住近接プランをもつ集合住宅として計画された。計画の基本姿勢は、空間的、経済的、法的制約をクリアしながら、いかに「場所」の意味と歴史性を獲得する現代建築を創出できるかである。まず単純な空間プログラムによって明解な構造形式であるBox（壁柱・扁平スラブ）を成立させ床面・壁面を明確化させる。その各部位に伝統素材を並置し交錯させながらポリフォニー的効果を生み出す工夫が計られている。いわば伝統素材を現代建築に再構成する試案の建築である。

（久保清一）



１階ロフト内部より中庭を見る



前面道路ファサード

■大阪弁天町アトーレ

所在地　大阪市港区
施　工　大林組
敷地面積　120.81㎡
建築面積　72.45㎡
延床面積　357.25㎡
構造規模　RC、6F
竣　工　1995年３月
撮　影　絹巻　豊

包む

前川治彦　前川治彦建築研究所



外観見上げ

この建物は箱体を何段にも積み重ねて収容する倉庫です。
内部は22mの高さを2層で使う高さが必要なため、大きなボリュームをどう造るかが設計のテーマでした。
部材を組み立てて構築していくのではなく、最小限の材料で最大のボリュームを生み出せるよう、一枚のプレートでインテリアを包み込むようにイメージしたものです。
皮膜で包むと言った概念はもう新しいものではなく、優れた実作も見受けられるのですが、壁を立ち上げて仕切り、屋根で覆う、といったやり方とは明らかに違った可能性が潜んでいるように思います。

（前川治彦）



2階内部



外観東面

■O社小林機材センター

所 在 地　大阪市大正区
実施設計　佐藤工業
施　　工　佐藤工業
敷地面積　565.98㎡
建築面積　395.64㎡
延床面積　956.57㎡
構造規模　S、3F
竣　　工　1997年5月
撮　　影　賀川憲男（KP工房）

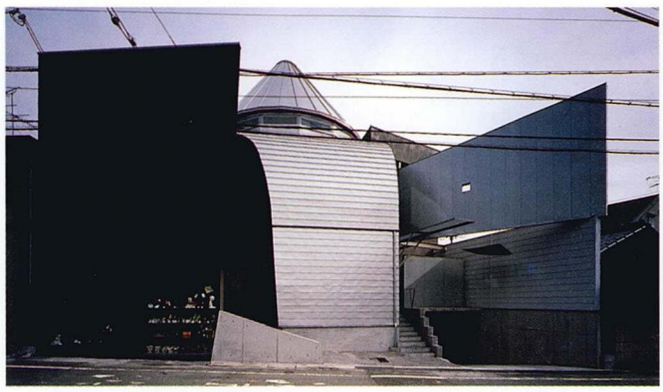
邂逅から邂逅へ…

歌　一洋　歌一洋建築研究所

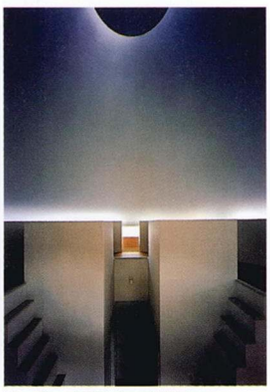


玄関から見上げる思い出の空間

住宅街の中にあり、ファサードをブティック、住宅、スタジオの三つの機能を形に差異を持ちつつ、分節に依って道空間のスケールに合せた。
円錐形の屋根は亡父の思い出の部屋として光の効果と、スケール感を消し、非日常空間を演出している。
それぞれの内部機能を外部へ端的に表わしつつ、町並みには、無彩色ながらいろのある空間を与えた。
（歌　一洋）



ファサード。左からブティック、住まい、スタジオ



思い出の空間に入る自然光

■千里丘の家

所 在 地　吹田市千里丘上11番10号
施　　工　交野建設
敷地面積　211.80㎡
建築面積　152.08㎡
延床面積　258.41㎡
構造規模　S、一部RC、B1F、2F
竣　　工　1997年４月
撮　　影　松村芳治

新しい民家へ…

阿久津友嗣　阿久津友嗣事務所



北側夕景

古くからの集落に建つ、200年ほど前の大和棟建て民家の建て替えである。
軒下のような、屋外であるのに室内のような場所が多い。
四角い部屋の続き間による平面（田の字）。
廊下がない。
収納が１列。
１間おきに連なる柱。
など、建て替前の民家の空間構成を再解釈し、現代における民家のあり方を模索した。

（阿久津友嗣）



※南側全景



家族室

■桜井の住宅

所在地　奈良県桜井市
施　工　出口工務店
敷地面積　487.45㎡
建築面積　168.77㎡
延床面積　217.02㎡
構造規模　W、2F
竣　工　1997年10月
撮　影　宮田昌彦※、阿久津友嗣事務所

宙に浮いた光の箱

岡崎善久　岡崎善久建築設計事務所



北西からの夜景

敷地は、JR関西線・八尾駅から東北に歩いて５分程の場所にある。古い住宅や細分化された敷地に建売り住宅が多く、町並みは残念ながら雑然としている。計画発足当初から建築が街に明るい雰囲気を賦与できるようなファサードを考えていた。外観は異なるボリュームの組み合わせによって構成している。前面道路に面する居室はガラスブロックの壁で２方向を囲っている。昼間は乳白色を透過した柔らかな光が部屋を充満するが、日暮れ時になると反転しガラスボックスのボリュームが光の箱となって街に灯をともす。

この建物は３階までが賃貸住宅、４階と５階がオーナー宅となっている。狭い敷地に５階建ての住宅という厳しい条件のもと、どの階においても居住性が満たされるようさまざまな工夫をした。建物を大きく２棟にわけて一方は軸を振り、意図的に隙間の空間をつくっている。２棟に挟まれた部分は階段室及びエレベーターホールである。この共有のスペースを中心に、隙間から漏れる光や通り抜ける風、垣間みえる緑など、外部の気配を内部に引き込んでいる。敷地と建物の間にできたスペースには植栽を植えて、敷地の内外の関係を緩やかなものとした。この建築ではあらゆるところで外と内が意識され、街にアクティブに働きかけることができた。

（岡崎善久）



居間からハイサイド窓。食堂と台所をみる



和室をみる

■K's CUBE

所在地　大阪府八尾市安中町1-14-1
施　工　鉄建建設＋建築工事プロデュース研究所
敷地面積　240.64㎡
建築面積　136.95㎡
延床面積　432.24㎡
構造規模　RC、一部S、5F
竣　工　1999年８月
撮　影　杉野　圭

復興；潤いある街並みの再生へ

小南一郎　小南一郎建築研究所



細街路からの外観（漆喰調塗壁と木格子のバルコニー）



エントランス・アプローチ（奥のコートへ）



東大通り側外観

この建物は、神戸市灘区の市街地に建っている。先の阪神・淡路大震災で倒壊してしまった古い木造長屋の再建として、その代替地に計画されたものである。敷地面積は、258.07㎡（約77坪）で、東に幅員21.8mの広い幹線道路、南には幅員約3.0m（50cm後退により4.0mみなし道路）のやや狭い道路に接した角地である。

計画に際しては厳しい日影規制をクリアーしながら、1階を店舗・事務所・ガレージ、2～4階を学生向けのワンルーム賃貸住戸（計画戸数20戸）の4階建としている。この建物の空間構成は、大きく3つのブロックからなっている。第一は南面住戸ブロック、第二は東面住戸ブロック、そして第三は、斜め階段を含む吹抜けの中庭空間である。

設計に際しては、採光・通風を考慮しながら、南面採光できるブロックを大きく取り（18戸）、最上階にはロフトを設けて、開放感とゆとりのある室内空間を実現している。また各ブロックを継ぐ形で、東西に通路空間を通して、東西方向にも風の流れるブロック構成としている。斜めの屋外階段を含む吹抜けの中庭空間は、少し囲い込まれる構造とすることで、住まう人々に、共有の場としての意識が生まれるように配慮した設計となっている。

（小南一郎）

■Y-court

所 在 地　神戸市灘区神ノ木通3-3-1
施　　工　マキタ建設
敷地面積　254.80㎡
建築面積　177.62㎡
延床面積　666.84㎡
構造規模　壁式RC、4F
竣　　工　1998年3月
撮　　影　神戸SS

街とつなぐ

田中啓文　田中啓文総合建築研究所





通過交通の多い幹線道路に面して、この集合住宅は建っています。街路に接した第1の空間として、緩衝体となる植栽と砂利敷のピロティを介して、ガラススクリーンで緩やかに外部と隔てられたエントランスギャラリーを設けました。

この空間は、街路に沿った大きな横長の風除室とも言えるもので、建物全体と街路空間とを繋ぐ役割を持っています。同時にこのギャラリーは、奥に続くエントランスホール及びエレベーターに面した中庭と、街路との間に介在して、これらの空間の静寂性を確保するものです。

外皮を構成するガラススクリーンは、昼間は活気ある風景を写し込んで街と一体化し、夜間は内部を透けて見せ、帰宅する住人達を暖かい光で迎え入れます。

（田中啓文）

■アーバネックス住之江

所 在 地　大阪市住之江区浜口西3-8-11
施　　工　長谷工コーポレーション
敷地面積　426.86㎡
建築面積　269.78㎡
延床面積　1,818.35㎡
構造規模　RC、10F
竣　　工　1999年3月
撮　　影　賀川憲男（KP工房）

みち・ひろば・公園

長谷川弘直　都市環境計画研究所



ストライプデザインを基調とした細長い広場


夜を演出するクリスマスツリー


石彫石やビー玉でつくられた噴水広場は子供達の遊び場となる

木津町の役場を道路ひとつ挟んで連続する南北のリニアプラザ型（幅12m、長さ160m）の公園である。この広場には保育園が接していて、可愛い園児達の通園路にもなっている。幅の狭い空間は出来る限りオープンにしてストライプのペーブデザインでリズムを強調し、動きのあるグラフィカルな空間構成とした。クリスマスツリーとイルミネーションがある（保育園児のために）町のオアシスとして水と戯れ、ふれあう石彫噴水の小さな空間を設け、大屋根のウッディテラスと一体的な親と子が共有する安らぎの場をつくった。こうした公共施設はつくることは元より、育て守ることが大変である。特に花や樹木の成長への心配り、手入れ、噴水の維持管理などのランニングコストは今日の厳しい財政状況のなかで継続することはいずれの自治体でも頭の痛いことである。しかし、ここでは役場を中心とする町の「いこいの場」として、質の高い広場づくりと管理に高い認識をもって運営されている。

（長谷川弘直）

■木津リニアプラザ

所在地　京都府木津町
規　模　約2,000㎡
竣　工　1997年6月
撮　影　長谷川弘直

"まどい"の空間―光と木と土と

長瀬博一　長瀬建築研究所



1階新設階段と食堂・台所

近郊農家で、施主の山林材による築後41年の民家再生である。御長男が新妻を迎え、御両親と同居されるので大改修となった。2世代の御夫婦とやがて生まれ来る子供達が快適に住める「まどいの空間」を創りたい。

その為……

①冬寒く薄暗く使いづらかった1階土間のDKを床暖付の上げ床板張に。

②台所・多用室等を増築。

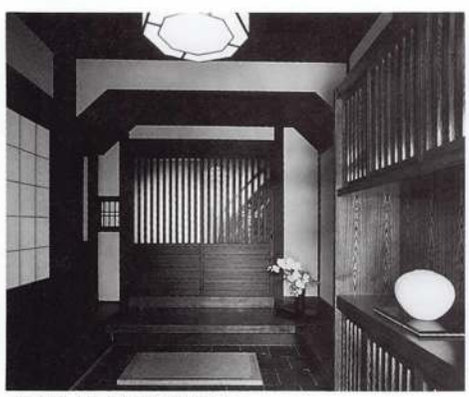
③応接間を居間とし、DKと開閉自在につなぎ、吹き抜けを生かした天窓と照明を新設すると共に階段を新設。

④2階を小室に分断していた階段を撤去し、低い天井を廃して登り梁等を化粧材で露わし、縁甲板を勾配なりに張り上げ、ゆったりした天井高の室とした。（手洗所も増設）

⑤建具や造付家具を全て新調。

⑥民家特有の木構造を出来るだけ引立てるように配慮した。

（長瀬博一）



1階玄関（右手前は総漆塗飾棚）



2階若夫婦寝室

■京都・西賀茂の家

所在地　京都市北区西賀茂鎮守庵町122
施　工　上野工務店
敷地面積　970.00㎡
建築面積　190.83㎡
延床面積　262.84㎡
構造規模　W、2F
竣　工　1998年5月
撮　影　奥田耕作（フォトアクティブ）

なつかしの宿

菅沼　稔　石井建築事務所



湯殿棟　外観夕景

新・旅籠の提案。
この言葉の下にこの湯宿は設計された。

新潟県湯之谷村。
ここは日本一の米どころ、魚沼産コシヒカリの産地である。秀峰駒ヶ岳を間近に仰ぎ、眼下には清流佐梨川を見る。そこに大湯温泉、ゆの宿峡里（かいり）がある。
峡里（かいり）とは、自然と共に育まれた山あいの懐かしい山里のこと。
そんな、昔懐かしいふるさとで、ゆっくり温泉につかり、旬の地の料理を食べ、後はただ川の流れや移り変わる四季の大自然を眺めてもらいたい。

そんな宿づくりを目指しました。
（菅沼　稔）



浴室内全景



旅籠棟　玄関まわり

■ゆの宿峡里（かいり）

所 在 地　新潟県北魚沼郡湯之谷村大湯301
施　　工　守谷商会新潟支店
敷地面積　3,321.10㎡
建築面積　1,911.43㎡
延床面積　6,498.83㎡
（うち今回増築　1,325.55㎡
　〃　改装　3,442.03㎡）
構造規模　RC、7F、B1F
竣　　工　1999年３月
撮　　影　奥村浩司写真事務所

空きを活かす

新居照和＆ヴァサンティ　新居建築研究所



竹を群植した中庭から階段塔を見上げる

木造賃貸住宅が並ぶ下町の建て替え住宅である。狭小敷地２区画分を合わせた敷地に、新しく子夫婦世帯が加わった３世帯が一緒に住む。これまでの近隣関係を培いながら、三世代にわたる多彩な人間関係と個々様々な家族の有り様を包み込むような住居が求められた。

建て込んだ隣接三方と４ｍ未満の前面街路によってつくり出された余白空間と直上空が、自然との交歓をもたらす空間だ。大小様々な開口部を通して独特な光や通り風、空、緑や家並みの光景が入ってくる。様々な居室を南北の軸上に配置し、吹き抜け階段塔が鉛直方向に結ぶ。一階居室は地底に降り注ぐような間接光に満たされ、二階は土を載せたテラスに陽光が降り注ぐ。三階は大空と対面できるような開口部を設けた。階段塔に面した幅２ｍ足らずの中庭には、空に向かって高さ８ｍ余りの孟宗竹を群植した。この密集地では想像ができないような大きな竹の出現には、隣人も窓を介してとても感動しているようだ。　（新居照和）



前面街路から見る。空に抜けた3階の窓が見える



様々な開口部から射し込む自然光のグレーデーション

■八尾の家

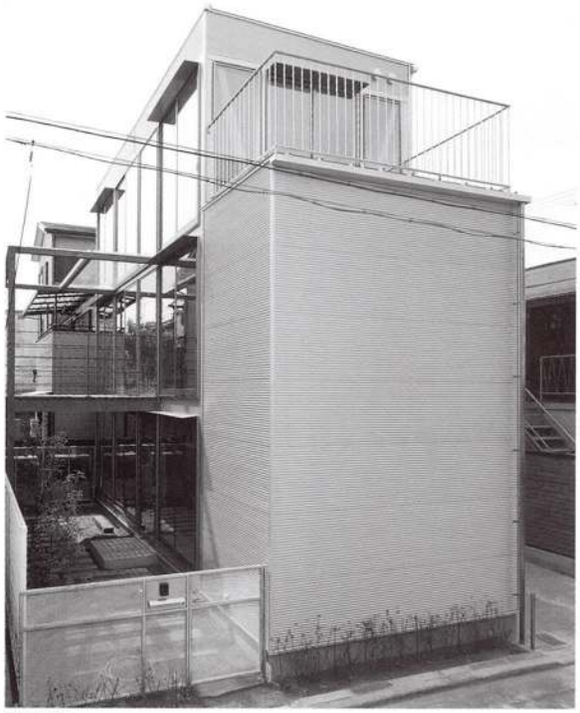
所在地　八尾市久宝園２丁目
施　工　永田建設
敷地面積　141.19㎡
建築面積　84.65㎡
延床面積　177.94㎡
構造規模　RC：1F、W：2,3F
竣　工　1998年７月
撮　影　北田英治

立体的に自然とかかわる

吉村篤一　吉村篤一＋建築環境研究所



食堂より和室をみる



北側外観

以前NEXT21（未来型実験集合住宅）に約５年間住んでいた、夫婦＋子供２人の標準的な家族のための住宅である。敷地は10m角の正方形で北側正面に小学校があり、周辺は小規模な住宅が並んでいる。それ程広くない敷地であるが、出来るだけ庭を広くとり開放的な空間となるよう計画した。東側を南北に抜けた庭として、これに面して大きな開口部をとり、２階の居間にはデッキを張り出し、将来東側の緑のフェンスが繋れば、立体的にも室内外が一体となった快適な空間となることが期待できる。また平面的には、各室を仕切る簡単な建具を開放する事で大きな空間が得られ、住み手が以前住んでいたNEXT21と同様に広がりのある空間になっている。

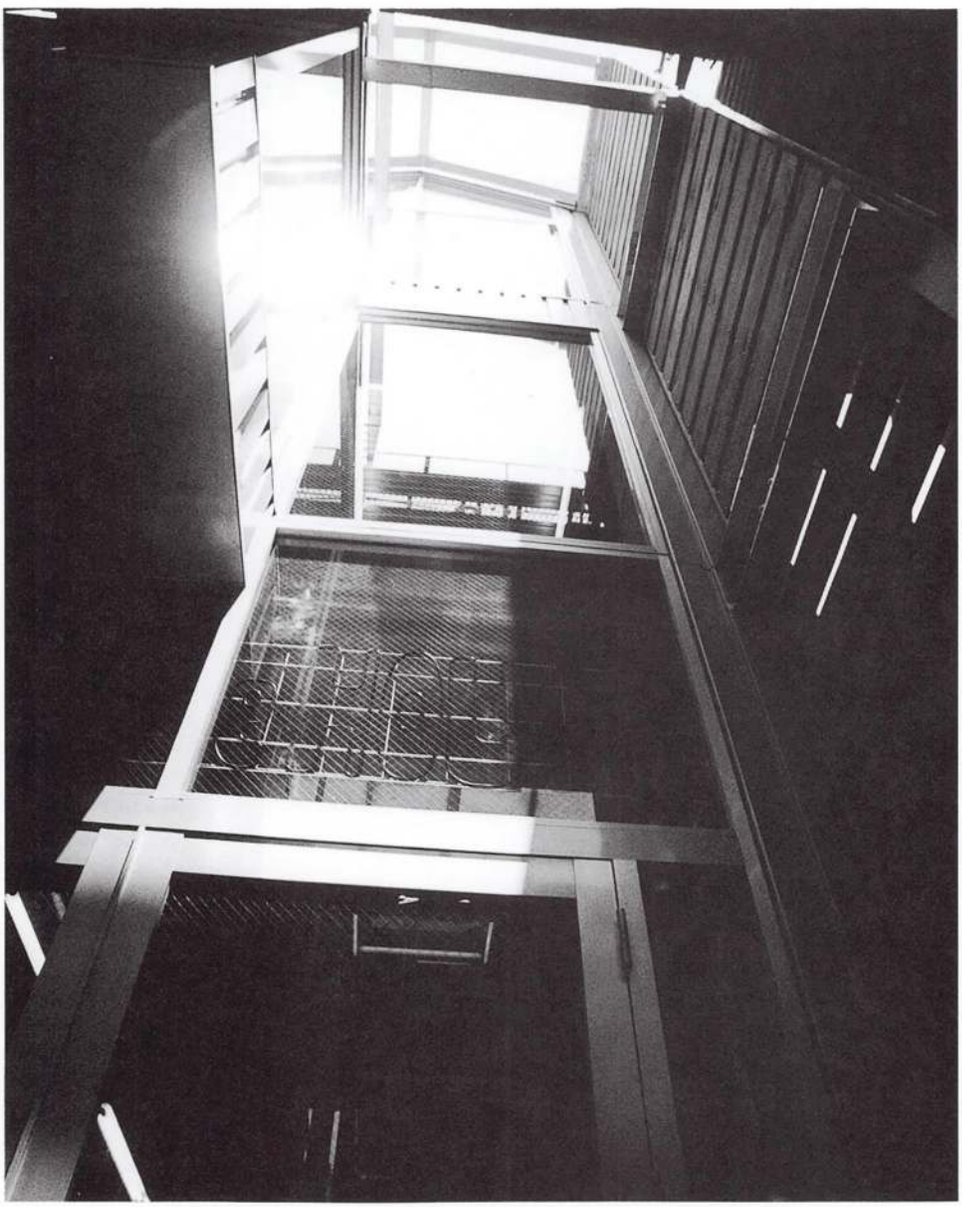
（吉村篤一）

■三国ヶ丘の家

所 在 地　大阪府堺市中三国ヶ丘
施　　工　池原工務店
敷地面積　100.00㎡
建築面積　 53.44㎡
延床面積　122.16㎡
構造規模　W、一部RC、3F
竣　　工　1999年３月
撮　　影　大島勝寛

面積0（ゼロ）の売場

笹木　篤　建築・都市設計インタースタディオ



光庭

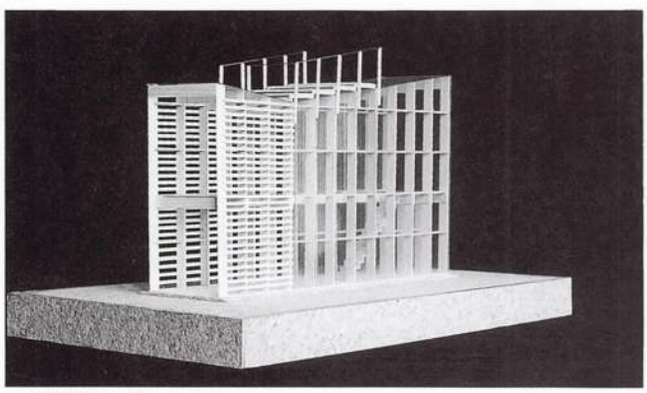
店舗の設計で私が常に考えるのは、店全体をショーケースにすることです。間口の狭い店舗では、奥行方向を透明にします。

ここに挙げる子供服店では、吹抜を大きくとって、壁面や空中を、面積ゼロの売場と捉えています。

1mのセットバックによって、商店街のアーケードとの間に光庭を設け、ファサードを浮かせることで、ショーケース感は強化されます。この考えを進展させたのがK自転車店の案です（模型写真）。今度は変則的な木造在来工法です。屋外での作業場が光庭となり、ショーケースとなっています。

これらの手法は、商業的なDATAの上では盲点をついた提案とも言えます。

（笹木　篤）



K自転車店案



ファサード

■リトルハウスバギー

所 在 地　神戸市東灘区甲南町3丁目
施　　工　林工務店
敷地面積　39.19㎡
建築面積　31.15㎡
延床面積　76.53㎡
構造規模　S、3F
竣　　工　1998年5月
撮　　影　笹木　篤

仰角の視界を意識する

村重保則　村重保則＋現代建築設計事務所



風除室から中央階段を見通す

岩国市を代表する錦川沿いの小高い山の上に総合運動公園が建設され、今回その一角に展望休憩所が計画された。付近は風致地区に指定されており、設計上建物の形態、色、材質等に様々な制約を受ける。平坦な敷地に一辺20ｍの正方形の対角線を基軸として対岸の岩国山に向け、前面に開口部を大きくとって仰角の視界を得るとともに、外光をふんだんに取り込んだ明るい空間となるようデザインした。エントランスに入ると建物中央を貫く階段とその両側に立ち並ぶ列柱の拡がりによって内部空間全体を見上げることになる。建物は数段の段差をつけることで大きく３つのエリア（エントランス、休憩、レストラン）に区分され、それぞれの機能を明確にしている。建物西側にはバリアフリーのスロープを設け、中段の休憩スペースへ直接入ることが出来る。

休憩場を訪れた人はゆったりとした空間を進むうちに展望スペース、外部の展望デッキへと導かれる。眼下の眺望を楽しみながらくつろいだ時間を過ごす絶好の場所である。

（村重保則）



南側正面外観、四角形の平面の一角がアプローチにあてられている。
敷地北側は斜面になっており、眺望が得られる



喫茶スペースを見る

■岩国運動公園展望休憩所

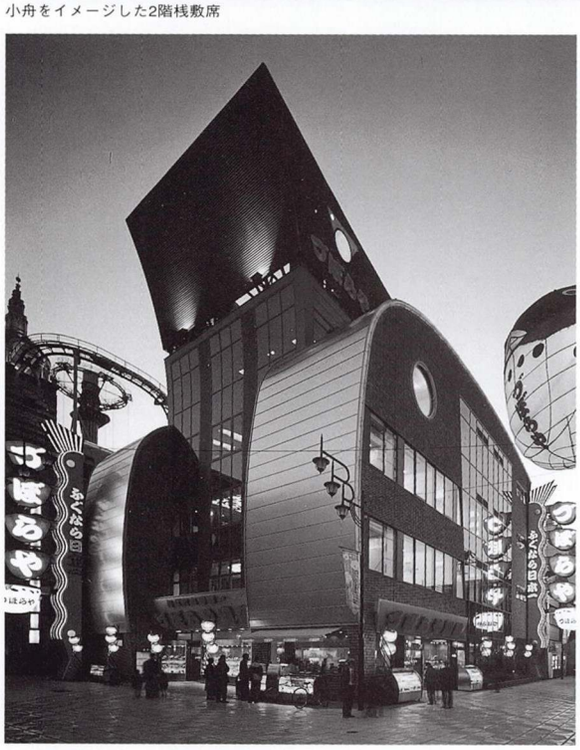
所 在 地　山口県岩国市平田1-834-1
施　　工　松政建設
敷地面積　159,512.18㎡
建築面積　464.91㎡
延床面積　438.72㎡
構造規模　RC：1F、S：2F
竣　　工　1997年12月
撮　　影　磯谷写真事務所

未来性と大衆性

池上　明　エーアイ アーキテクト スタジオ



小舟をイメージした2階桟敷席



外観夜景

何年ぶりかで新世界を夜訪れた。通天閣を曲がったところで、「づぼらや」のふぐちょうちんがひときわ大きく光っていた。その時、このシンボリックなふぐちょうちんを建物に置き換えてみようと思った。新世界は明治以降、未来性と大衆性を持ちながら変化してきた。この建物にもそうした新世界らしいシンボル性を持たせた。曲面を用いたオーガニックな形態と素材の組み合わせでふぐを暗喩する建築形態とすることにより、建築そのもので「づぼらや」を表現し、モダンで親しみやすい建物とした。

内部は建築のイメージをうけて、1階―海、2階―海上、3階―海岸、4階―空、5階―空中庭園というフロアーコンセプトを設定しデザインしている。また、5階の大広間は屋上庭園越しに通天閣や天王寺公園といった大阪らしい風景が見渡せるように計画した。階ごとに変化を持たせたことと、外部との繋がりを大事にしたことでインテリアでも大阪らしい大衆性を表現した。

（池上　明）

■づぼらや新世界店別館

所 在 地　大阪市浪速区恵美須東3-6-1
施　　工　大成建設
敷地面積　680.07㎡
建築面積　514.35㎡
延床面積　2,718.03㎡
構造規模　S（地下RC）、5F、B1F、PH1F
竣　　工　1998年11月
撮　　影　松村芳治

漂白された記憶の中に

上谷重男　U建築企画室



鉄フレーム、ステンレス、モルタルのコントラスト



杉丸太、未知空間への導入

吉備路の春はレンゲ、桃、菜の花の香りが風にのり、訪れる人々の感性をくすぐると同時に、鬼城後、吉備王国、秀吉の水攻めで有名な高松城、美味しい地酒、これらがこの地の蓄積を語りかけてくれる。

このような地域であっても、日本各地に吹き荒れた、イベント型、テーマ型の町づくりの残像が残っている。JRの車窓から風景を楽しんでいると、突然、巨大なゴルフ打放し場が現れたり、良好な住宅地に金儲けの為のマンションがやたらと増えていたりする。

映画で寅さんは、地域と家族について、次のようなセリフを残している。

（バスに乗り遅れて田舎の畦道を歩いていくうちに、日が暮れてしまってね。心細く歩いていると、ポツンと一軒の農家が建っていて、リンドウの花が庭に一杯咲いていてね、開けっ放しの縁側、明かりのついた茶の間、華やかに食事する家族、これが本当の人間の生活じゃあないかなと、ふと思ったら、急に涙がこぼれちゃってね）

吉備路の住宅は、こうあると同時に、地域にたいして（節度）持つものでありたい。

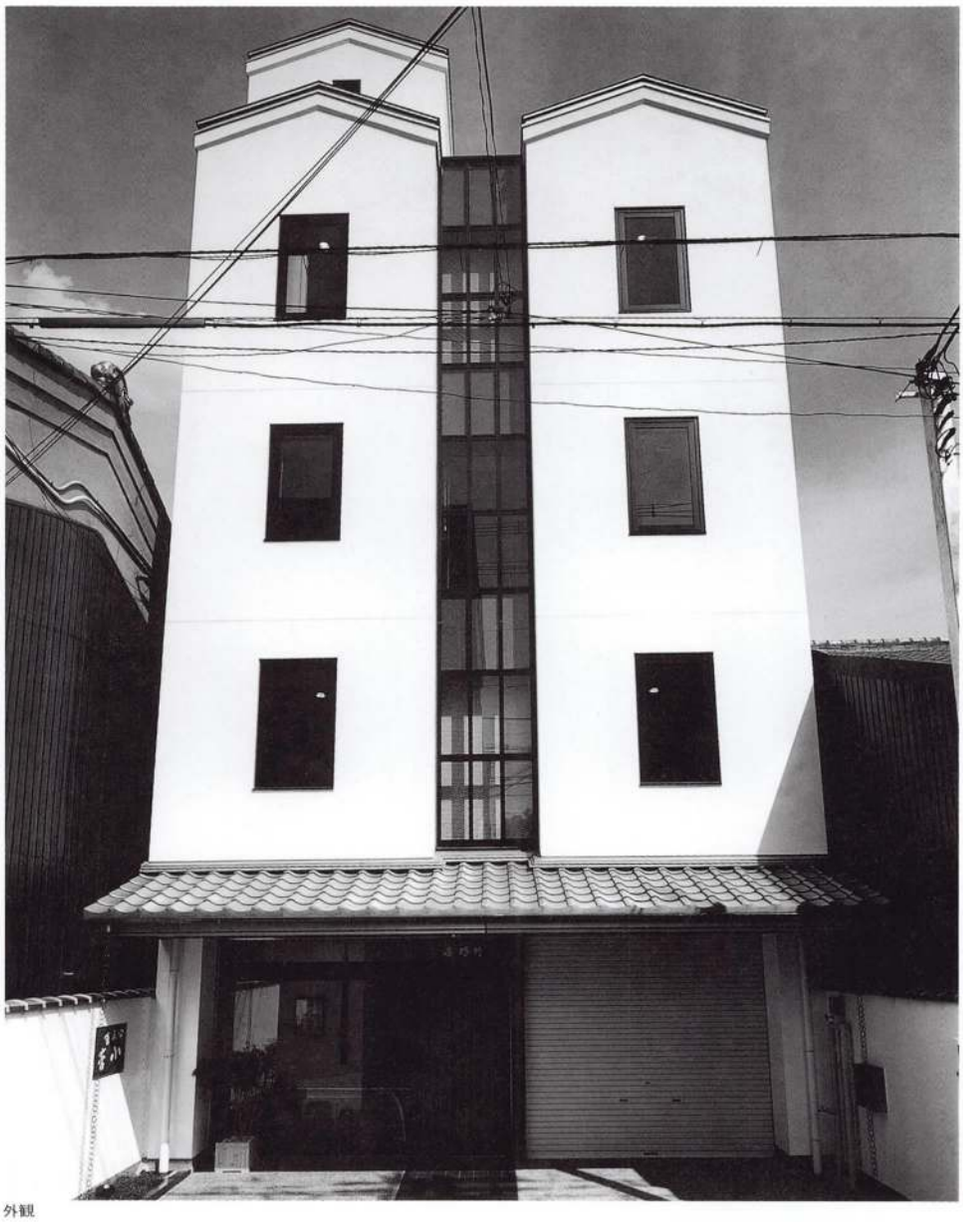
（上谷重男）

■岡山　吉備路の家

所在地	岡山市一宮113-5
施工	絹輪建設
敷地面積	223.81㎡
建築面積	130.30㎡
延床面積	236.24㎡
構造規模	W、2F
竣工	1998年４月
撮影	U建築企画室

竹工芸の館

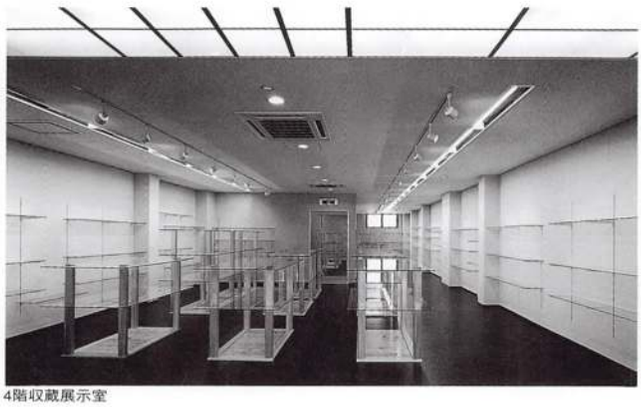
志村公夫　志村建築設計事務所



外観

竹工芸品の創作、制作、卸の創業100年を迎える老舗の本社ビルである。敷地の周辺は、京の町屋が虫食い状にビルやマンションに建て替えが進んでいる。日本の伝統工芸品を扱う会社のビルのデザインとして塔状の蔵をイメージして提案した。屋根は金属板と瓦で、外壁は新建材による白壁で仕上げ、カーテンウォールとともに、和の雰囲気になるよう構成してみた。作品の収蔵展示棚はガラスと桧の無垢材をボルトによって固定したオリジナルデザインである。

（志村公夫）



4階収蔵展示室



玄関ホール

■竹巧居・公長斎小菅ビル

所在地　京都市中京区油小路通姉小路下ル宗林町88
施　工　熊倉工務店
敷地面積　220.44㎡
建築面積　173.74㎡
延床面積　692.98㎡
構造規模　S、5F、B1F
竣　工　1998年8月
撮　影　原　定理

再生と共生をめざして

吉村英祐　大阪大学柏原研究室



夕暮れのファサードに浮かび上がる大きなかぼちゃの花。原画は谷本天志氏の作



※トイレブースのボックスに貫入する階段



流れるような空間の広がり

ダウン症児を子に持つ親の会「かぼちゃ畑」の活動拠点として、千里ニュータウン佐竹台近隣センターの空き店舗を改修した施設である。道路側から見える大きなかぼちゃの花の壁画には、子供たちの自立と明るい前途への願いが込められている。

近隣センターの活性化とデザインレベルの高い店舗改修の誘発をねらったシンプルな美の追求、フレキシブルな空間構成、子供たちが安心して過ごせる生活の場、車いす対応、耐久性、旧部材の再利用、自然採光・自然換気などが設計上の重要なテーマであった。

ボランティアの設計活動を通して、大学院生は施主と対話を重ねることの大切さと現場のおもしろさを学んだ。多くの賛同者とボランティアに支えられて、1999年5月30日に念願の開所式を迎えた。

（吉村英祐）

大阪大学柏原研究室
柏原士郎（大阪大学教授）
吉村英祐（同助教授）
横田隆司（同助教授）
阪田弘一（同助手）
木多彩子（同補佐員）
岩下文香、岡島英範、大村俊一、生川慶一郎、山田直紀、山本昌和、横田　都、吉川智子
（同大学院修士課程）

■遊ゆう（うち）　かぼちゃのお家

所在地　吹田市佐竹台2-5-5
施　工　阿倍野建設
建築面積　103㎡
延床面積　150㎡
構造規模　RC、2F
竣　工　1999年4月
撮　影　松村芳治、※吉村英祐

高齢者にやさしい空間

森川哲治　日創設計



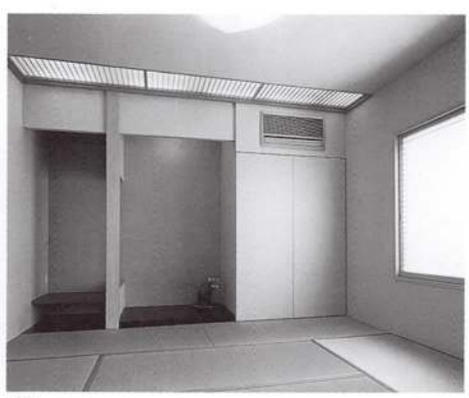
正面全景

高台から望む眺めは、遠くは若草山の緑を映し、いにしえの都を物語る寺社仏閣の大屋根とそれを取囲む緑の木々が随所に見られ、美しい街を形成している。
そのような自然と歴史のある街並みの一画に、この建物は位置している。
生活の軸となるL.Dを中心としたプランは、その周りにキッチン、和室、デッキスペースを配し、2階をプライベートルーム（主寝室、書斎、子供部屋）に充てている。
高齢者と同居ということで、出来るだけ段差をなくし、浴室、脱衣室との出入口もフラットにし、将来車椅子の利用にも配慮している。
また、手摺も要所々設けているが、バリアフリーだけに拘らず、他の住み手にとっても住み心地の良い空間となることも考慮している。

（森川哲治）



リビングからダイニングを見る



和室

■あやめ池の家

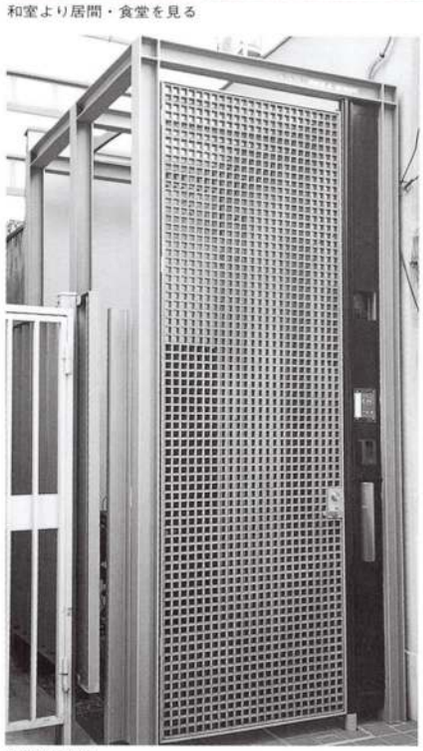
所 在 地　奈良市あやめ池南4丁目
施　　工　三和建設
敷地面積　222.76㎡
建築面積　88.73㎡
延床面積　133.57㎡
構造規模　W、2F
竣　　工　1998年12月
撮　　影　フォトはなおか

思い入れの継承と再生

槃木康次　槃木康次建築事務所



和室より居間・食堂を見る



玄関門扉部分

独り暮らしを始めた母の許に、末娘の夫婦が同居するという形の昨今、多く見受けられる二世帯住宅である。

都会の中の古い建物で、家業や子供の成長と共に、建増しが繰り返され家の中の主な室は、昼なお薄暗い陰鬱な状態になっていた。

改築に際し、本床のある仏間などは、当時の主の思い入れが偲ばれ、その一部を再生したいとも思ったが、施主との話し合いの中で、やはり、全面的にやり替える事になった。

母の居住空間は、扉一枚の向こう側にあるが、今回は手を加えていない。夫婦に与えられたのは、限られた僅か20坪弱のスペースであるが、狭さの中に敢えて“坪庭”を提案した。結果、自然と空間と併せて当時の主の承認も獲られたのではないかと思う。

語り尽くせぬ修羅の場を超えて、ようやく完成した家の前に立ち、建築を設計することの意味を自問したのも二年前の過去の話である。

（槃木康次）

■SK邸

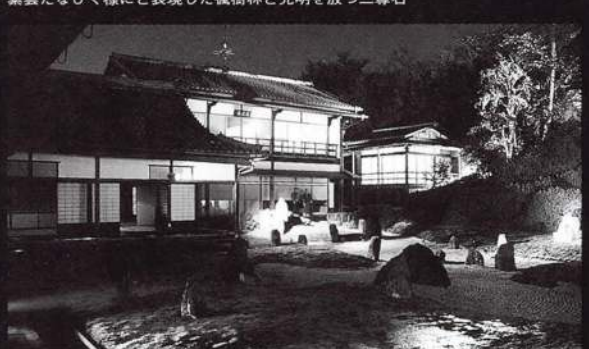
所在地　大阪府豊中市
施　工　嘉地建設　他
敷地面積　180.00㎡
延床面積　62.50㎡
構造規模　W、1F（一部ロフト）
竣　工　1997年７月
撮　影　森野宏樹

佛に紅葉の夜景を供える

村上幸三郎　村上デザイン事務所



紫雲たなびく様にと表現した楓樹林と光明を放つ三尊石



白砂と青苔の中に佇む石群



紅葉の大樹を背にする南部の三尊石を書院から眺める

街の色研究会・京都は、京都に夜景を創出しようと寺院のライトスケープを順次に展開してきた。

洛南に在る紅葉の名勝・臨済宗総本山東福寺の塔頭「光明院」の庭園は、庭園研究家重森三玲氏が昭和14年に東福寺本坊庭園とともに作庭に着手し、近年まで整備が加えられてきた昭和の名園である。白砂と青苔が微妙な曲線を描き、三ヶ所に配された三尊石などがあたかも光明に結ばれ、躑躅の大刈り込みと紅葉林がそれを囲む鑑賞式庭園であるが、本堂や書院を巡りつつ眺める回遊的な趣もある。

月明かりを意識しながら、三尊石と配石に衆生集う存在感を意図し、本堂前にある大楓樹の紅葉を強調して華を創った、一夜限りの照明演出である。

（村上幸三郎）

■光明院庭園ライトスケープ'98秋

所在地　京都市東山区本町15

設計施工　街の色研究会・京都景観照明調査研究部会

実施日　1998年11月23日

撮影　街の色研究会・京都景観照明調査研究部会

GBRCニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565-0873 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-6872-0391 FAX.06-6872-0784
業務時間 9：00～17：15
http://www.gbrc.or.jp

確認検査業務の開始について

当財団は、平成11年10月4日に建設大臣より確認検査機関の指定（指定番号 建設大臣第4号）を受け、同日より確認検査業務を開始いたしました。

■業務区域

滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県及び和歌山県の全域

■業務範囲

建築確認並びに中間検査及び完了検査業務
住宅金融公庫融資住宅の設計審査及び現場審査業務

■対象建築物等

1．建築基準法第38条、第67条の2及び建築基準法施行令（以下「令」という。）第81条の2の規定に基づく建設大臣の認定を受けて新設される建築物（当該建築物の計画に含まれる令第146条第1項に掲げる建築設備を含む。以下同じ。）及び工作物（遊戯施設を除く。以下同じ。）
2．高さが31mを超える鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造及び鉄筋コンクリート造の建築物
3．以下に掲げるような構造や工法が特殊な建築物
・4階建て以上のプレキャストコンクリートによる壁式鉄筋コンクリート造の建築物
・建築物の4層以上にわたって片側土圧を受ける建築物又は建築物の高さの10m以上にわたって片側土圧を受ける建築物
・異種基礎を併用するもの
・壁式とラーメン構法を立面的及び平面的に大規模に併用するもの
4．大規模工作物
・高さが10mを超える擁壁
・高さが50mを超える鉄筋コンクリート造の柱及び鉄柱等のもの（ゴルフネットなど）
・高さが100mを超える煙突、広告塔、広告板、装飾塔、高架水槽、サイロ、物見塔等
5．防災計画書の添付が必要な建築物（高さが31mを超える建築物を除く。）
・旅館及びホテルの用途に供する建築物で5階以上の階又は地階におけるその用途に供する部分の床面積の合計が2,000㎡を超える建築物
・令第147条の2第1項から第3号までに掲げる用途に併せて供する複合建築物で、5階以上の階又は地階におけるその用途に供する床面積の合計が2,000㎡を超えるもの
・3階以上の階において不特定多数が利用する建築物で、床面積の合計が10,000㎡（駐車場の床面積を除く。）を超えるもの
6．前5項に掲げる建築物及び工作物と同一敷地内にある別棟の建築物及び工作物、並びに、前5項に掲げる建築物及び工作物と隣接又は近接する敷地内にあり、一体的に計画される建築物及び工作物
7．前6項に掲げる工作物に設けられる建築物及び昇降機その他の建築設備

■手数料（表－1）

表の中間検査及び完了検査（中間検査あり）はいずれも当財団で建築確認又は中間検査を行った場合の手数料です。また、完了検査（中間検査なし）は、当財団で建築確認を行ったもののうち、特定工程が指定されていない場合並びに特定行政庁又は他の指定確認検査機関において中間検査を行った場合の手数料です。

なお、当財団の建築技術安全審査委員会で評価又は審査を受けた建築物については減額した手数料を設定しておりますので詳細については、お問い合せ下さい。

■確認検査業務を行う場所 及び 問い合せ先

（財）日本建築総合試験所 建築確認検査センター 建築確認検査課
大阪市中央区南新町1－3－8 ヤマハラビル6階
TEL / 06-6966-7565 FAX / 06-6966-7680

表－1 手数料 ○建築物（工作物、計画変更等については、お問い合せ下さい）　（単位：円 消費税：外税）

延べ面積（㎡）	建築確認	中間検査	完了検査（中間検査あり）	完了検査（中間検査なし）
30㎡以下	10,000	18,000	18,000	20,000
30㎡を超え，100㎡以下	18,000	22,000	22,000	24,000
100㎡を超え，200㎡以下	28,000	30,000	30,000	32,000
200㎡を超え，500㎡以下	38,000	40,000	42,000	44,000
500㎡を超え，1,000㎡以下	68,000	66,000	70,000	72,000
1,000㎡を超え，2,000㎡以下	96,000	90,000	94,000	100,000
2,000㎡を超え，10,000㎡以下	280,000	200,000	220,000	240,000
10,000㎡を超え，50,000㎡以下	480,000	320,000	360,000	380,000
50,000㎡を超え，100,000㎡以下	920,000	660,000	740,000	760,000
100,000㎡を超え，200,000㎡以下	1,200,000	920,000	1,020,000	1,040,000
200,000㎡を超えるもの	1,500,000	1,160,000	1,280,000	1,300,000

住環境を守る条例、制度ー京都市と神戸市ー

芦田直樹 京都市都市計画局建築指導部指導課長
竹田衝吾 神戸市住宅局建築部指導課

京都市中高層建築物等の建築に係る住環境の保全及び形成に関する条例の施行

京都市では「京都市中高層建築物に関する指導要綱」、「京都市共同住宅建築に関する指導指針」及び「京都市建築紛争調整委員設置要綱」により行っていた行政指導の内容を「京都市中高層建築物等の建築に係る住環境の保全及び形成に関する条例」（以下「条例」という）として定め、平成11年5月1日から施行した。

目的及び対象建築物（第1章）

(1) 目的

中高層建築物等の建築に関し、建築主等が配慮すべき事項、建築計画に係る周知の手続、紛争の調整及び調停に関する手続その他必要な事項を定めることにより、紛争の予防及び解決を図り、もって安全で快適な住環境の保全及び形成に資することを目的とする。

(2) 対象建築物

① 中高層建築物

第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域	軒の高さが7mを超える建築物又は地階を除く階数が3以上の建築物
第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 第1種・第2種住居地域 準住居地域、近隣商業地域 準工業地域	高さが10mを超える建築物又は地階を除く階数が4以上の建築物
商業地域 工業地域	高さが17mを超える建築物又は10mを超える建築物で商業地域、工業地域以外の用途地域に日影を生じさせるもの

② 特定共同住宅

共同住宅（他の用途と併せたものを含む）の用途に供する建築物のうち階数が3以上で、かつ、住戸の数が15以上のもの

建築主等の配慮等（第2章）

(1) 中高層建築物等の用途及び規模並びに地域の特性に応じ、次に掲げる措置を講じるよう努めなければならない。

ア 近隣住民の住居の日照及び通風に及ぼす影響の軽減
イ 近隣住民の住居の居室の観望の防止
ウ 隣接する道路の交通安全の確保
エ 自動車、自転車等の駐車場の設置
オ 当該建築物の形態及び意匠の周辺の景観との調和

(2) 工事による騒音等の防止、軽減対策
(3) テレビジョン電波の受信障害の対策
(4) 建築物及びその敷地の緑化の推進

建築計画に係る周知の手続（第3章）

(1) 標識の設置等（確認等の申請を行う27日前）

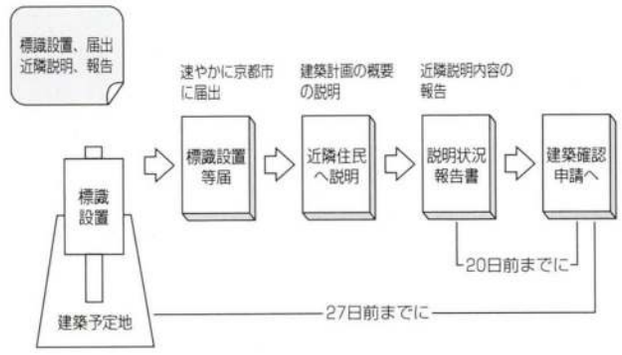
建築主は、建築計画の周知のためその概要を記載した標識を設置し、その設置した旨及び建築計画の概要を市長に届け出なければならない。

(2) 近隣・周辺住民への説明

説明対象住民	定　義
近隣住民 ⇩ 説明義務がある。	ア 敷地境界線から15m以内の土地の所有者、建築物の所有者・占有者（以下「土地の所有者等」という） イ 建築物の外壁から建築物の高さに相当する距離の範囲内にある土地の所有者等
周辺住民 ⇩ 説明を求められた場合は説明義務がある。	ア 建築物の外壁から建築物の高さの2倍に相当する距離の範囲内にある土地の所有者等 イ 冬至日の午前9時から午後3時までの間に日影が生じる範囲にある土地の所有者等 ウ テレビジョン電波の受信障害が生じ、又は生じるおそれがある区域内の建築物の所有者、占有者

(3) 報告等（確認等の申請を行う20日前までに）

建築主は、近隣・周辺住民への説明の状況を市長に報告しなければならない。



中高層建築物等に係る指導（第4章）

(1) 市長は、高さが17mを超える建築物を建築しようとする建築主に対し、当該中高層建築物の高さの制限に関する指導をすることができる。

(2) 特定共同住宅に係る指導

市長は、安全で快適な住環境の保全及び形成を図るため必要があると認めるときは、特定共同住宅の建築主に対し、指導をすることができる。

調整及び調停（第5章～第7章）

(1) 市長は、関係当事者の申出により、必要があると認めるときは、紛争の調整を行う。

(2) 市長は、関係当事者の双方から調停の申出があったとき、又は関係当事者の一方から調停の申出があった場合において他の関係当事者がこれに同意したときは、建築紛争調停委員会の調停に付す。

雑則・罰則（第8章～第9章）

～省略～

（あしだ　なおき）

建築確認の民間開放に伴う神戸市事前届出制度の創設

神戸市では従来、建築基準法に基づく各種法律・条例等のチェックや本市独自の条例・要綱など、建築に関連する規定（関連規定）に基づく行政指導等を、建築確認に先立っての一連の手続として行ってきた。この一連の手続は、建築行為にかかわる種々の関連規定を一連の流れの中で処理する仕組みであり、その後、建築基準法に基づく確認の審査へと移行する。これは本市にとっては関連規定の実効性の確保に資するものであるとともに、建築主にとってはワンストップサービス的効果を有するものでもあった。

しかし、昨年６月の建築基準法の改正による建築確認・検査業務の民間開放に伴い、民間機関での確認物件に関しては、市が事前に建築行為の情報を把握することが困難になる。これにより、従来の事前手続が機能しなくなり、関連規定の実効性の低下や建築主に対するサービスの低下を余儀なくされることとなる。

つまり、建築行為に関する情報を事前に本市が把握できないことにより、行政指導が確認済証の交付の後にまわることとなる。たとえ当初より行政指導に従う意向を持っていた建築主であったとしても、無用な混乱と負担を強いることとなる、といった事態も生ずることが懸念される。

本市としては、このような不合理が生ずることのないよう、従来の仕組みを生かしながらも新しい制度として確立することとなった。

事前届出制度の創設

本市では、市内で建築をする際に事前に市へ届け出る「事前届出制度」を創設した。そのねらいは次の３点である。

- できるだけ早い段階で建築行為の情報を把握し、必要となる建築関連規定について情報提供し、その実効性の確保を図る。
- 従来の仕組みの長所でもある市民サービス面（ワンストップサービス）における有効性を今後も維持していく。
- 従来の仕組みにおける手続を、一つの独立した手続として法的に位置付け、行政手続としての明確性を持たせる。

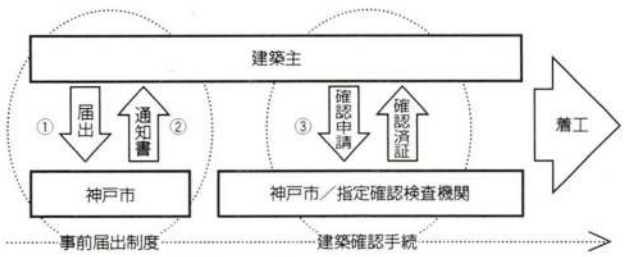
本制度はその手続を「神戸市民の住環境等をまもりそだてる条例」に規定している。この条例は、「総合的かつ計画的な住環境及び都市環境の保全及び育成」を目的としており、近隣紛争防止を目的とする本市独自の「指定建築物制度」や、建築基準法に基づく特別用途地区、地区計画、建築協定に関する規定などから構成されている。この「事前届出制度」についても、本市独自の制度として、この目的の下に位置付けることとした。

条例に規定されている手続の概要は次のとおりである。

① 建築主は、建築確認申請に際して、事前に市長へ届出を行う。
・建築確認申請等に先立ち、建築主の届出を義務付ける。
・確認申請の一定期間前までの届出に努めるよう義務付ける。
② 市長は、住環境等の保全等の観点から、必要な措置を講ずる。
・住環境等の保全・育成の観点から助言・指導することができる。
・届出事項に関する関連規定等の情報を記載した書面を交付する。
③ 届出の手続の実効性を確保する。
・建築主が適切な届出を行うよう、市長は指導・勧告することができる。

事前届出制度の概要

事前届出制度を含めた建築確認に至る流れは、次のようになる。



事前届出制度と建築確認の流れ

① 建築主は、確認申請の前に、その計画等を市長に届け出る。

届出には、所定の様式（事前届出書）に、必要最低限の図書を添付することとしている。また、確認申請の10日前（指定建築物制度の対象となるものについては30日前）までに届出を行うよう努める旨を条例及び施行規則に規定している。

② 市長は建築主に対して、建築関連規定についての意見等を記載した通知書を交付する。

通知書には、届け出られた図書に関して、本市独自の建築関連規定のほか、建築基準関係規定その他本市でしか確認し得ない事項について、その適合状況などに関する意見などを記載する。

③ 建築主は、通知書を添付して確認申請を行う。

この手続は条例により規定されるものではない。しかし、上記の通知書を添付することにより審査業務がスムーズに行えることもあり、本市としては通知書の添付を、建築主・代理者にも指定確認検査機関にも強く依頼していく。

なお、本市の建築主事へ確認申請を行う場合は、②③の手続を簡素化することができるよう運用している。

制度の創設をめぐる論点

本来的には、建築基準法に基づかない条例・要綱など建築関連規定の指導は建築確認手続とはリンクさせるものではない。しかし一方では、法に基づく建築行政だけにはとどまらない総合的な役割を多くの市民から期待されているのが、本市も含めて地方行政の現状であろう。この制度は、その要求を両立させながらも、その乖離を補完する一つの試みであるともいえる。

建築行為に関する関連規定に基づく指導の実効性は、基本的にはそれぞれの規定に依拠せざるを得ない。ただ、できるだけ早い段階、特に建築確認申請の前の段階に情報を把握し、関連規定を周知させることが、実効性を確保する重要な要因の一つとなることも確かである。この役割を担うのがこの制度である。

住環境・都市環境の保全・育成を掲げる本市の住環境行政においては、建築基準法から独立した手続として条例による届出の義務付けを行うことは、その施策上最低限必要なものであると考えている。今後とも、この制度についての建築主の理解と協力を得るとともに、市民のために良好な住環境の実現に努めていきたい。

（たけだ　しょうご）

「故事を読む」

構造技術者 Engineer 大氏 正嗣 Masashi Ouji

建築への意志は、素材への想い入れと技術の確かさによって裏打ちされている。そして、素材との対話は私たち文明の在り方に関わっており、その可能性を広げることは世界を切り開くことを意味する。今回最後のテーマを迎えることになったシリーズ「素材が生み出すdesign」は、素材・技術の源流にどれだけ近づくことができたであろうか。

「建築は文化の鏡である」と感じることがある。ほんの数十年の建築の変遷を見ても、社会文化の変動が手に取るようにわかる。しかし、社会が変動したとしても人々の暮らしがどれだけ変わったのであろうか。今回は、生活に欠かせない基本的な素材（物質）として「水」を取り上げる。私たちが用いる「水」と生活の関係について、故事を切り口にして考えてみたい。（「素材と技術が生み出すdesign」幹事会）

○水清ければ魚棲まず（孔子家語・入官）

「水は綺麗である方が望ましい」と誰もが考えている。名水百選がもてはやされ、人々がこぞってミネラルウォーターを求めるのは、こうした考えによるものだろう。しかし、綺麗な水とは何を示しているのか。

水は、生命の源である。但し、本当に不純物のない水中に生命は存在し得ない。清流は見た目に美しくても、数多くの生命がその中にある。生きることができる水である。例えば、名水。多くの人がおいしいと感じるこの水にも数多くの微生物が存在し、水道の衛生基準に合致するとは限らない。食物連鎖のフィールドを水は提供する。

抗菌に代表される日本人特有の潔癖性が言われて久しいが、他の生物が育たない環境は人間にも優しくない。滅菌が可能かどうかは、有害細菌等の致死量と人間の致死量の違いに依存する。化学物質で微生物を排除することは、結果として人体にも影響を及ぼす可能性を持っている。人間の体は機械仕掛けではない。水を必要とすることに関して、他の生物と何ら違うところはない。





○知者は水を楽しむ（論語・雍也）

○水は方円の器に従う（韓非子・外儲説・左上）

○水の低きに就くが如し（孟子・告子・上）

水は液体（Liquid）である。刻一刻と変化し続けて、同じ形態をとらない。風が起これば波を打ち、物が落ちれば波紋を生む。隙間に染み込み、斜面を流れる。熱を得て蒸発し、放出し氷となる。その変化は自然の摂理に叶うものではあるが、複雑な外的条件の違いが多様な変化を生み出し、私たちの五感を楽しませる。例えば、水の流れがたてる音。ホワイトノイズに近いが、一定のリズムを兼ね備えている。そこに、私たちは想像力を添加して涼や安らぎを覚える。雪の結晶。その形は私たちの想像力をかき立てる。自然は絶妙のバランスを有している。

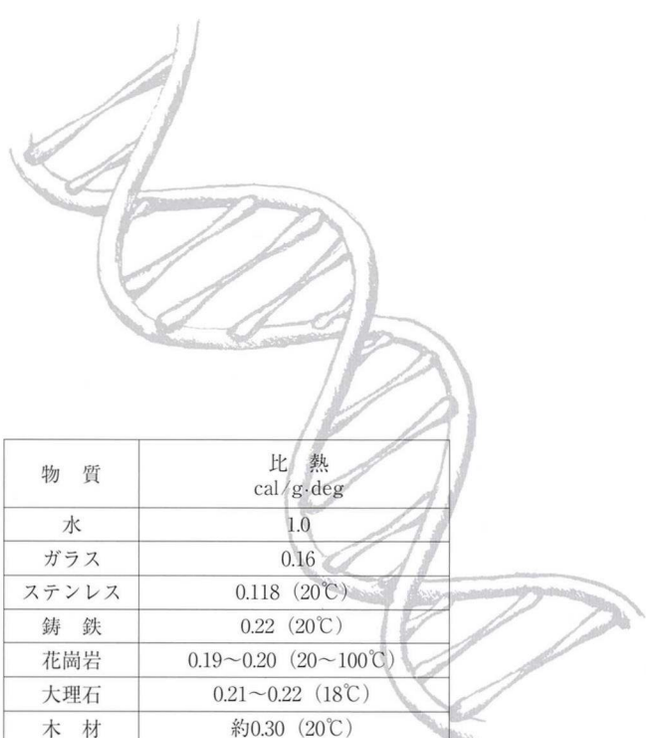
水はそれ自体を利用するハードウエアとしてだけでなく、ソフトウエアとしても利用できる。水の特徴は、自然界で三態を有することにある。周辺環境の変化に応じて姿を変える。それは最も自然なこと、最も負荷の小さな状態を示している。メンテナンスフリーを標榜する姿を変えない材料は、環境に与える負荷が大きいことを意味するのではないか。また、変化しないことは、ハードウエアとして価値があっても、人と関わるソフトウエアとしてはどうだろうか。「水」のように変化する物質の効果を、もっと考えてみる価値があるのではないか。

○君子の交わりは淡き水のごとし（荘子・山木）

この故事は人と人の関わりを示している。しかし、人の交わりがなぜ水に喩えられるのだろうか。水は非常に小さな分子の集合であり、緩やかな電気的偏向を有している。これが、様々な物質を溶かすことに重要な役割を果たす。塩が水中で正イオンと負イオンに分離するのはよく知られた話である。水は、その中に多くの物質を溶かし込むことができる。また、DNAの2重螺旋の結びつきは水素結合によっている。この結合は水中においては容易に切り離せるが、空気中で切り離すには莫大なエネルギーを必要とする。

こうして考えると、「淡き」という言葉はキャパシティーをも意味するのではないかと考えさせられる。水の温度を上昇させるには、相応の熱量が必要である。ものの温度を上昇させるのに必要な熱量を表す指標として比熱という言葉がある。個別の物質を考えれば、水の比熱がとびぬけて高いわけではない。しかし、私たちの周辺を見渡した時、身近にこれほど比熱の高い材料を見付けるのも容易ではない。すなわち、温まりにくく冷めにくい。熱容量が大きいのである。

鋭敏に振れすぎず、余裕を持ち接する。人の関係だけに限らず、人とものの関係、人と建築の関係においても水のことを思い浮かべてみるといいだろう。



物　質	比　熱 cal/g·deg
水	1.0
ガラス	0.16
ステンレス	0.118（20℃）
鋳　鉄	0.22（20℃）
花崗岩	0.19～0.20（20～100℃）
大理石	0.21～0.22（18℃）
木　材	約0.30（20℃）
弾性ゴム	0.27～0.48
磁　器	0.18（15～200℃）
コンクリート	0.21

環境と技術

技術と環境は両立するのであろうか。常々、こうした疑問が脳裏に湧き上がる。私たちは、何のために技術を用いているのだろうか。何を目的として生きているのだろうか。技術は人を幸福にするための手段であると考えたときもあった。しかし、必ずしもそうではないらしい。

共生という言葉がある。観念的には、非常に望ましい状況と思う。しかし、自然は共生などしない。共生は結果であり目的ではない。自然に生きるものは、あくまでエゴイスティックな生態の下で、共生という形を見せる。互助ではなく、自己が生き延びるための手段が共生である。

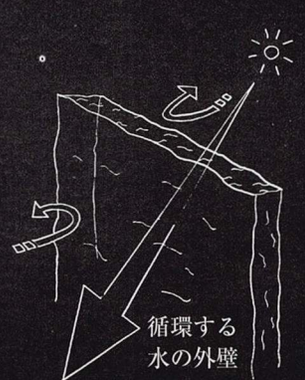
技術の究極の目的は「共生」にあったのではないだろうか。それは、人が生きていくために他のものを最大限利用する。そこに目的としての互助関係は存在しない。利用し、利用される関係のみがある。そして、その関係がバランスを保ち続けられる場合にのみ共生は成立する。現在の問題は、技術が人間の庇護下にあるが故に、自然とのバランスを保たなくとも淘汰されないことにある。

例えば、水の問題。現在の水道水は、細菌の繁殖を抑えるために非常に多くの塩素を用いている。それは、絶大な効果をもたらした。雑菌の繁殖を抑えられた水は、私たちに衛生的な生活環境を提供する。無責任な環境主義者が観念のみで自然への回帰を謳うが、伝染病が蔓延する時代への逆行を誰が望むだろうか。

一方で、塩素漬けの水は生物の体を蝕んでいる。それは、静かに、ゆっくりと確実に進行している。劇的な結果をもたらさない故に大きな問題とはならない。失言と叱られることを恐れずに言うならば、水道は世代を超えた巨大な人体実験の一つである。

技術は、長い時間をかける試験は不得意とする。そこでは、経験が実験や試験以上に重要視されるべきである。そして、経験は人の記憶の中でなく、自然の中に存在する。

「水」と人との共生を考えてみよう。水は、ありふれた物質である。ありふれているが故に、そのもの自体の可能性が取り上げられることは少ない。しかし、その多岐にわたる性質は素材の持つ無限の潜在能力を意味している。私たちは、素材を限られた指標で評価すべきではない。その多岐にわたる可能性を適当に引き出すことができれば、生み出される空間には無限の能力と変化が考えられるのだ。



平板プリズムを用いた太陽光採光装置

髙橋一夫
三洋電機㈱産機システムカンパニー商品開発研究所

太陽光を照明に直接利用する試みとして、世界初のプリズム屈折方式を開発し、太陽光採光装置「ソーライト」を商品化した（**写真1**）。ソーライトは、従来のドーム状トップライトの中に2枚の円形平板プリズムを組み込んだ構造で、その外観・施工方法はトップライトと全く同様である。また、運転に必要な電力は搭載した太陽電池により賄われるため、ランニングコストはゼロである。

一方、直射光がない曇天時でも、プリズムを透過した天空光により乳白トップライト並みの採光効果が期待できる。



写真1　太陽光採光装置「ソーライト」

プリズム屈折式採光の原理

ソーライトは、2枚の平板プリズムによる計4回の屈折を利用して太陽追尾を行い、常に直射光を鉛直方向に制御している（**図1**）。この制御機構は、太陽方位角・高度角の変化に対して各平板プリズムを水平面上で回転させるだけの単純なメカニズムである。

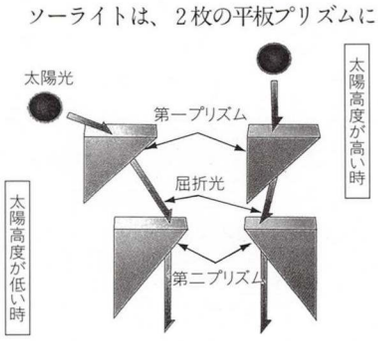


図1　プリズム採光原理

すなわち、太陽位置が最も低い状態では屈折力が加算されるよう2枚のプリズムを同一方向で使用し、その進路を大きく曲げる。

一方、太陽高度が高くなるにつれて光線の進路変化を小さくする必要がある。その場合には各プリズムの向きに適切な“ズレ”、すなわち回転角度を与え、各プリズムの屈折力の一部を打ち消し合わせる。最も太陽高度の高い状態では、2つのプリズムが互いに反対方向を向くように制御する。

このようにして、太陽位置の変化に応じて逐次2枚の平板プリズムに適切な回転角を与え、太陽高度10度～84度の直射光を鉛直制御している。

ソーライトの基本仕様

ソーライトのサイズは、開口寸法900㎜のASL—96型と同1300㎜のASL—13型の2種類で、13型は96型の2倍以上の採光量が得られる（**表1**）。機種名末のGTは網入りガラス内蔵タイプを示し、防火地域や第二種地域に対応する。また、THTは電動式排煙機能を搭載したモデルで、建築基準法で定められた排煙設備として使用できる。本排煙モデルは、電気工事と予備電源が必要となるが、従来の方法・部材で対応できる。

また、これらソーライトの操作は、すべてワイヤレスリモコンで行う。太陽追尾を行うための日時・緯度経度データ、運転・停止操作などリモコンを使って、手元から簡単に操作可能である。

表1　「ソーライト」機種構成および仕様

型式	ASL-9SHT 標準型	ASL-9SGT 防火型	ASL-H9SGT 排煙防火型	ASL-13SHT 標準型	ASL-13SGT 防火型
開口寸法(㎜)	900		900	1300	
外形寸法(㎜)	1,123×1,123×365		1,140×1,140×496	1,540×1,540×465	
製品重量(kg)	24.5	32.5	68.6	47.0	68.0
採光面積(㎡)	0.67		0.55	1.53	
採光量*(lm)	直射光にて最大13,000		直射光にて最大10,000	直射光にて最大30,500	
採光範囲	太陽高度：10°～84°				

*：屋外直達照度10万 lx 時

採光性能

各季節ごとの採光量シミュレーション結果を**図2**に示す。採光量は春秋分の正午ごろが最も多く、逆に夏季は熱進入を防止するため、採光量を低く抑えた設計とした。また、弱光運転により、直射光のみを選択的に遮断することで過度の冷房負荷を与えないことも可能である。弱光運転時は天空光による採光を行い、採光照度は1/4程度に低く抑えられる（**図3**）。

採光光のスペクトルは可視光領域（400～700nm）において太陽光と変わりない（**図4**）。ただし、400nm以下の紫外成分と2000nm以

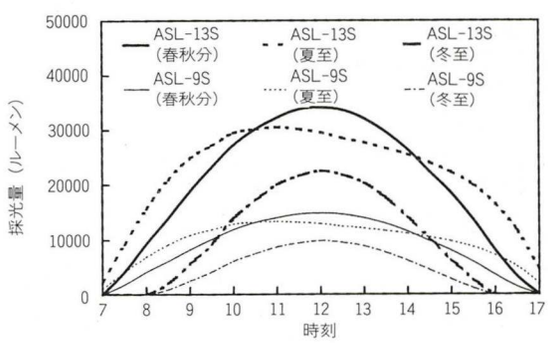


図2　採光量シミュレーション結果

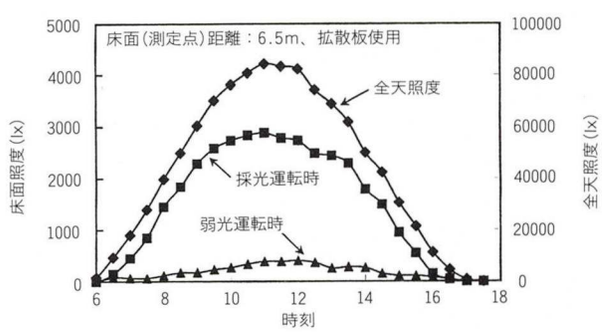


図3　床面照度（実測値）

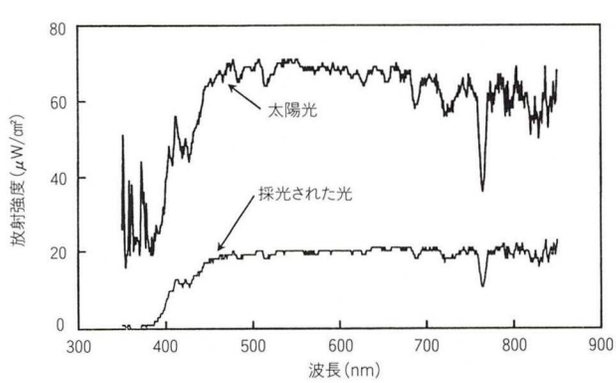


図4　採光光スペクトル

上の赤外成分は設計上カットしたため、強度は減衰されている。

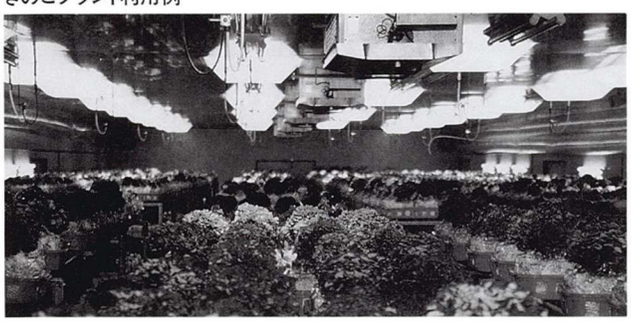
設置・利用例

ソーライトはこれまでに、工場・倉庫、住宅、学校・老健施設などのアンビエント光として、また植物栽培等へ利用されている。**写真2**は住宅に、**写真3**はきのこプラントに利用した例である。

写真2　住宅設置例



写真3
きのこプラント利用例



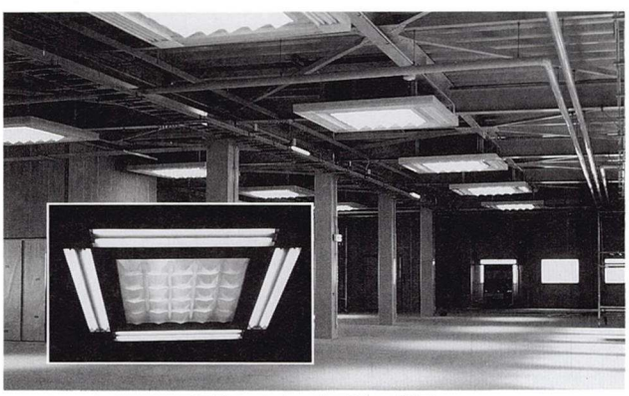
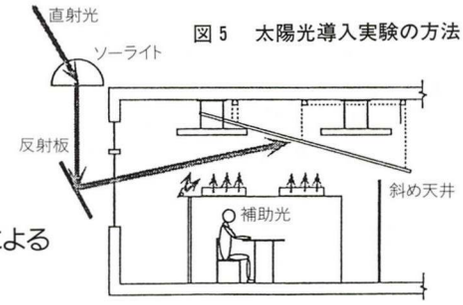


写真4　人工照明との併用

きのこプラントでは120台のソーライトが設置されているが、熱の進入が少なく、きのこの育成に不可欠な恒温・高湿度条件も容易に維持できる。また、太陽光を導入して栽培したきのこは、天然物と変わらない風味と触感が好評で、市場から大きな反響が寄せられている。

日射が極端に少ない雨天時や夜間に対応するため、天井面の出射部周囲に蛍光灯（50W×8本）を組み込んだ事例を**写真4**に紹介する。これらは1台ごとにON-OFF制御可能で、必要な所のみを点灯させ、省エネに配慮されている。また、照度センサを使って、完全自動調光を行えば、さらなる照明エネルギーの節約が可能となる。

図5　太陽光導入実験の方法



太陽光導入による心理的効果

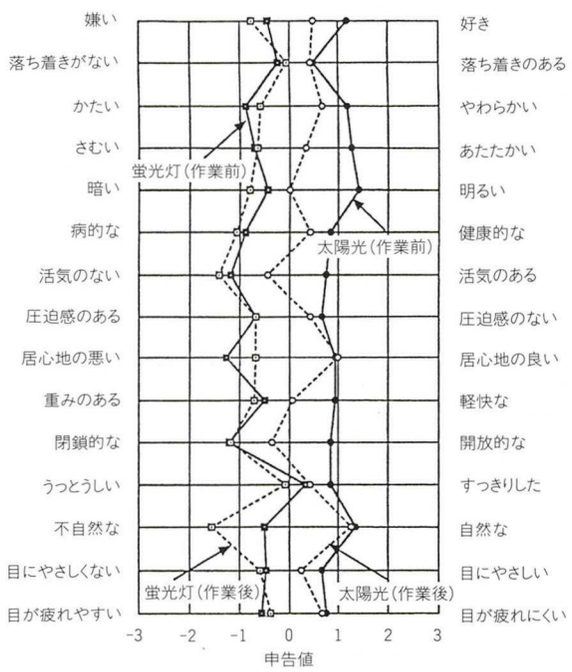


図6　蛍光灯と太陽光による室内環境評価

最後に、太陽光の導入による光環境が在室者にどのような心理的影響を与えるか、被験者実験の一例を紹介する。

図5に実験方法を、**図6**に申告結果を示す。実験は、ソーライトから出射した太陽光を傾斜した天井面に導き、天井面を二次光源とする全般照明をした。また蛍光灯のみの全般照明も行い、比較した。

申告の結果から、すべての項目において蛍光灯条件下（□）より太陽光条件下（○）の評価が高かった。特に「やわらかい、かたい」「居心地の良い、悪い」「自然な、不自然な」等の項目においてその差が大きい。これらについてSD法による因子分析を行った結果、部屋雰囲気の総合評価は「やわらかさや落ち着き感」「明るさや軽快さ」「開放感」「あたたかみ」に影響され、特に「やわらかさや落ち着き感」への影響力が大きかった。すなわち、太陽光の室内への導入は「やわらかさや落ち着き感」を向上させる効果があると言える。

おわりに

近年、環境問題は“人類の継続的発展”にとって避けがたい重要な課題である。特に一昨年のCOP3（気候変動枠組条約第3回締約国会議）以来、さまざまな手段で省エネルギーと環境保護への取り組みがなされている。

一方、直射光や天空光などダイナミックに変化する環境をそのまま室内に導入することは、その変動の大きさや早さの点で好ましくないことも事実であり、建築的工夫や電気的工夫により変化・変動の緩和が必要である。今後、自然光が持つやわらかさや落ち着き感といった心理的な特性を生かしつつ、われわれが最も得意とするセンサ技術・調光制御技術などの電気的工夫を使って、快適性と省エネルギーを両立させた“新ソーライト”が必要と考えている。

（たかはし　かずお）

大型建材タイルの乾式工法

茶屋徹夫
㈱平田タイル取締役

開発の経緯

従来から内外装材料のタイルは、レンガ形状を基に小口タイル・二丁掛タイルが主に多く使用されており、またデザイン性及び施工性向上から小形状タイルをユニット化した工業製品モザイクタイルの需要も増え、内外装材料の主流を占めている。

近年、建物の高層化・工期の短縮・技術力の平均化・トラブルの低減等から建物も乾式化が進んでおり、これに伴う石材・ガラスを始めとする大型新建材の普及に対応すべく、タイルも工法の乾式化・材料の大型化の必要性が認識されてきた。

タイル業界としても現在の流れに対応し、発注者・設計者の要望に応え、石材と同等な質感・色彩感を焼物で表現できる大型タイルの開発を進め、今後の外装タイルの主流として捉えている。

特徴

・形　状：最大寸法は1200×900㎜まで可能。また、曲面にも対応できる。
・意匠性：表面形状の多様性が無限に近い
・色　彩：カラーバリエーションが豊富
・強　度：曲げ強度は石材の約２～３倍
・躯体挙動への追随性：乾式工法のため優れており、はくり落下に対する安全性が高い
・寸法安定性：タイルの寸法が大きいため製造方法が異なり、通常のタイルより寸法安定度が高い
・メンテナンス性：焼物であるため自然石に比べ経年変化が少ない

適用範囲・条件

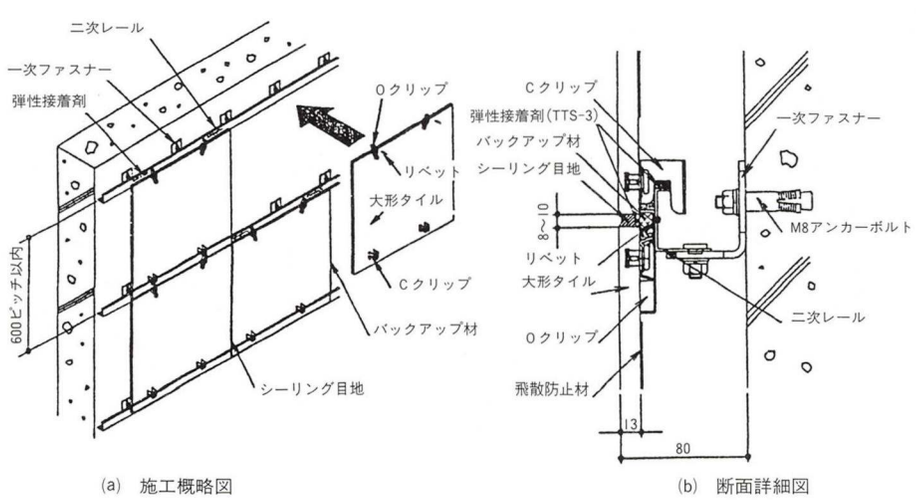
・中高層建物外装及びそれに準ずる屋内壁面
・採用寸法は風圧に対する強度検討が必要
・高さ制限は31m以下



写真１　採用例

表１　物性比較

物性 ＼ 材料		タイル	花崗岩(参考)
吸水率	%	0.8	0.35
比重	g/cm³	2.3	2.65
曲げ強度	N/mm²	49	14
圧縮強度	N/mm²	245	147
ヤング係数	N/mm²	4.4×10^{4}	5.1×10^{4}
熱膨張係数	1/℃	8.0×10^{-6}	7.0×10^{-6}
熱伝導率	W/m. ℃	1.05	2.10



(a)　施工概略図　　(b)　断面詳細図

図１　施工要領

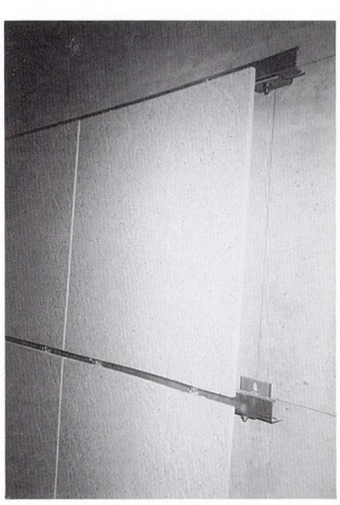


写真２　取付状況

二酸化炭素消火設備

由上雅章
ヤマトプロテック㈱

二酸化炭素消火設備の設置（一般建築物）

■二酸化炭素消火設備はどういう建物に必要か

消防法施行令第13条に規定されています。

二酸化炭素消火設備は、消火対象物に適応した消火の方式があり、全域放出方式、局所放出方式、移動式があります。なお、防火対象物またはその部分において、放出時間や必要ガス量が変わります。

■設置基準

＊自動車の修理または整備の用に供される部分や駐車の用に供される部分については、9月号の“泡消火設備-1-”にて説明ずみ。

＊発電機・変圧器その他これらに類する電気設備が設置されている部分の床面積　≧200㎡

＊鍛造場・ボイラー室・乾燥室等多量の火気を使用する部分の床面積　≧200㎡

＊通信機器室　≧500㎡

■設置場所の制限について

＊部外者、不特定の者等が出入りするおそれのある部分

＊関係者、部内者など定期的に人のいる可能性のある部分

＊防災センター、中央監視室など、常時人による監視、制御等を行う必要がある部分

＊共同住宅の自走式駐車場等

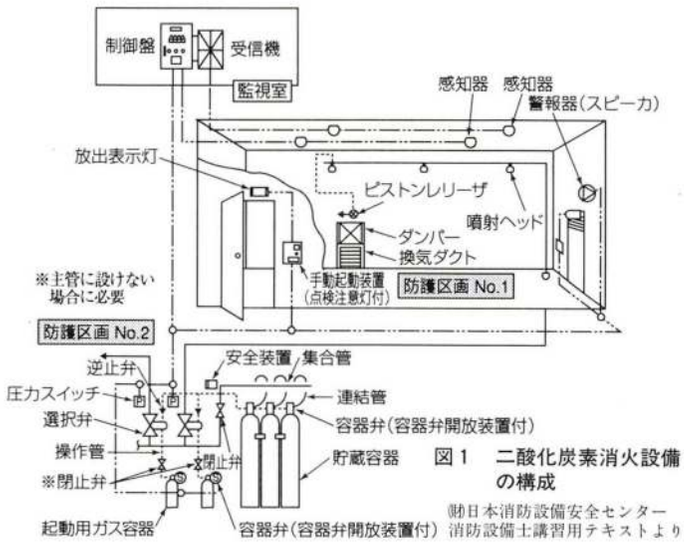


図1　二酸化炭素消火設備の構成

(財)日本消防設備安全センター　消防設備士講習用テキストより

二酸化炭素消火設備のシステム構成

二酸化炭素消火設備（全域放出方式）の構成例を図1に示します。

■二酸化炭素消火設備フローチャート

電気、空調、建築、施工依頼及び施工区分については、図2をご参照下さい。

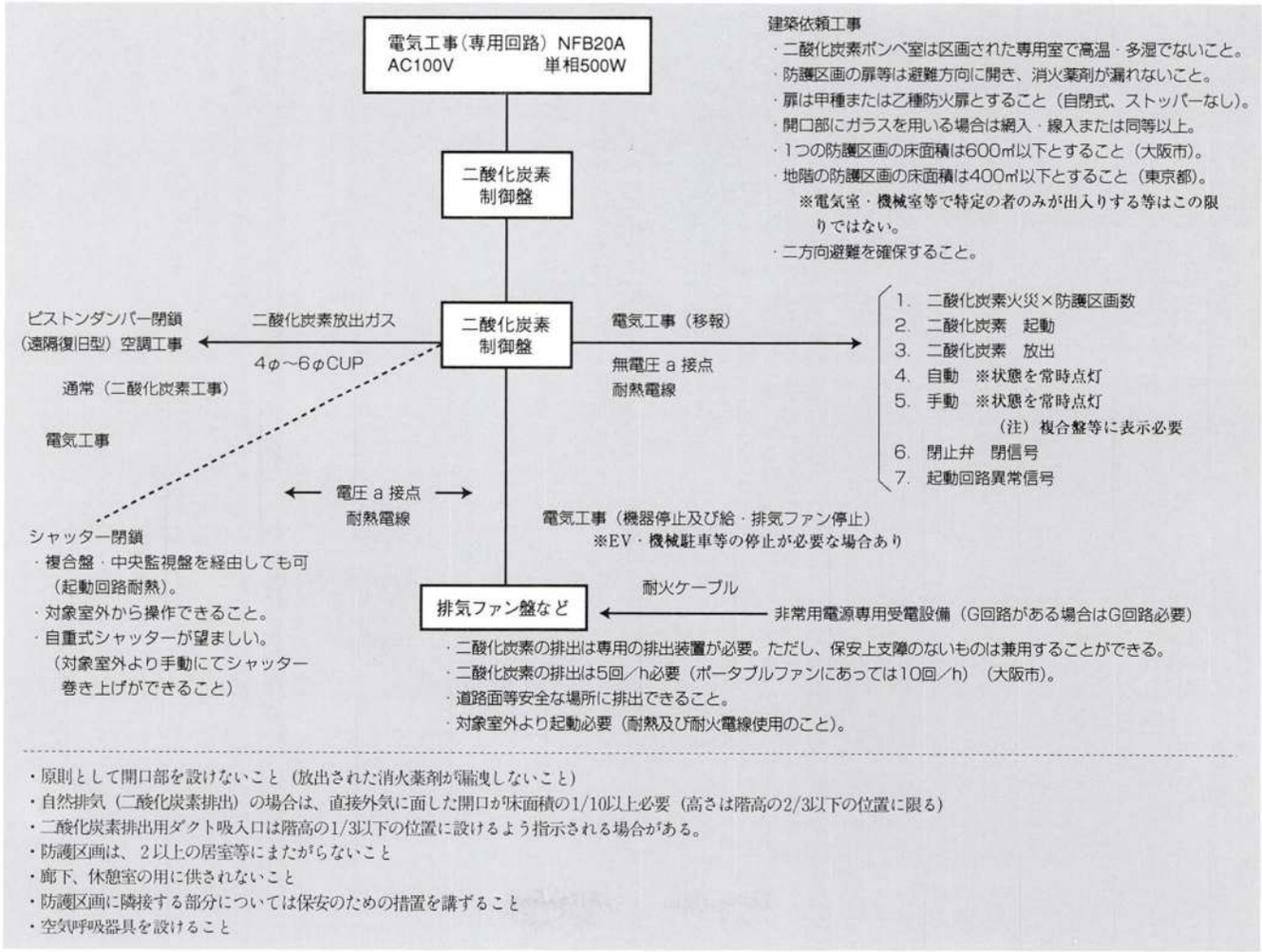


図2　二酸化炭素消火設備工事フローチャート　(ゆかみ　まさあき)

水は止めうる 地下構造物止水

株式会社アクアテック
〒553-0004 大阪市福島区玉川1-6-15
丸文平松町コーポ7F
TEL.06-6445-0255 FAX.06-6445-0503
メールアドレス aquatec100@msn.com
ホームページ http://plaza10.mbn.or.jp/~aquatec/

はじめに

近年、地下室の有効利用の為に、二重壁を設けない設計が増えつつあります。一方、多くの都市部はウォーターフロントに位置する為に地下の水位が高く、地下壁面には大きな水圧が作用しています。

しかし、都市部の地下構造物に於いて、立地・周辺条件を含め、オープンカット工法に依る躯体コンクリート外部に、地上部と同じ品質・性能の外防水を施す事は困難であります。

現在、打継部対策、コンクリート混和剤（材）の混入、打設管理の向上等に依り漏水の被害を低減させる事は可能となっていますが、未だ地下部の漏水は大きな課題となっています。

また、竣工後の水位の変化・コンクリートの根源的宿命である収縮ひびわれ等に依り、不測の漏水が発生した場合、内装意匠材の汚染などの美観上の問題もさる事ながら、電気設備の備わった機械室の場合、漏水はだけでは無く湿気も含めてその機能を損なう事態さえ起こり得ます。特に地下壁に設備機械・意匠材が併置されている場合は、その後の漏水対策が困難な状態も考えられます。

工法開発の目的

一般的に地下コンクリート構造物に於ける漏水の主な原因は、

①コンクリート打継部・コールドジョイント
②セパレーター跡
③連通管
④コンクリート欠損・ジャンカ
⑤収縮ひびわれ

などが考えられます。①～⑤の様な各原因別の漏水補修方法は、幾つか存在していますが、①～⑤の中において局部的（単一原因）に漏水補修をおこなった場合、施行後、未出水部（その他の①～⑤）からの新たに漏水するケースが数多く見られ、施行後の問題となる事があります。

また、地下構造物漏水原因となるものが①～⑤の中において複合的な原因であった場合、各原因別に積算を実施すると、部位によっては単位面積あたりの補修工費がかなり高価になることが予想されます。

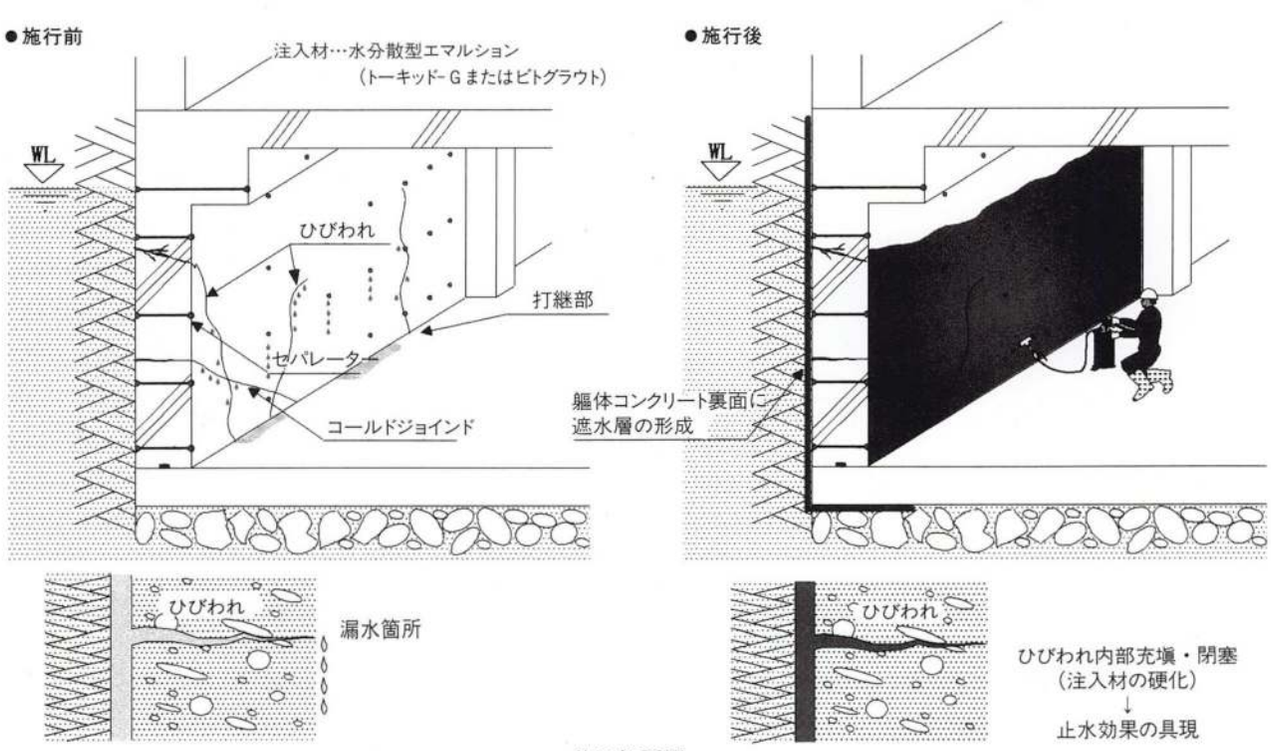
これらの問題に対して工期・工費・性能面で、漏水を確実に止水する工法を専門施工会社である㈱アクアテックが開発し、この工法に依り従来工法では著しく困難であった漏水の止水にあたり、既に数多くの実績をあげています。

工法の原理

地下コンクリート構造物に於ける漏水原因（ひびわれ・打継・セパレーター跡・ジャンカ等）からの出水やニジミに対して、地下室の壁または土間コンクリートをドリルにて貫通し、躯体コンクリート裏面に水分散型特殊ポリマー樹脂を注入する。外部の土圧や水圧を利用して、全ての漏水原因から注入材を逆流浸透させる事で、その内部（水みち）に注入材を充填・遮蔽すると共に、コンクリート裏面（躯体外部）に遮水層を形成する工法であります。

工法の特徴

- 漏水原因・箇所の確定が困難な部分においても、注入材が原因箇所を探し当て漏水を止めます。
- 漏水箇所＝湿潤状態のコンクリートとの接着性に優れています。
- 使用する材料及び工法が周囲の環境や作業員に対し安全です。
- 耐酸性・耐アルカリ性・耐薬品性等に優れ、長期に亘り安定した止水性能を有します。
- 責任施工を致します。（水が止まる迄が仕事です。）



施行概要図

ART BOX NAGOYA'99開催

30㎝の中に“環境の創造”を追求してきた竹中工務店名古屋支店設計部主催の「ART BOX NAGOYA」は10回目を迎え、場所を国際デザインセンターに移して開催される。テーマは「環'99『透明』」。入場無料。

日　時　1999年11月17日(水)～22日(月)
　　11：00～20：00（最終日は18：00閉場）
会　場　IdcN デザインギャラリー
　　名古屋市中区栄3-18-1 TEL052-265-2106
　　ナディアパークデザインセンタービル4F
テーマ　重ねて透かす　透明、半透明、不透明…
　　ものの存在と私たちの意識を再考する
内　容　(A) ART BOX
　　――30㎝にこめる「ものづくり」の想い
　　(B) MASS ART
　　――設計部員200名の集合作品、透明なOHPシート、半透明のトレーシングペーパーを用いて多様な「透かし」を創造する。

村野藤吾建築設計図展とシンポジウムを京都工芸繊維大学で

1995年以来数回にわたり、京都工芸繊維大学は村野・森建築事務所から村野藤吾氏の遺した設計の原図その他の資料合計3万数千点と想定される寄贈及び預託を受け、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、造形工学科建築コースの有志により整理・分類・保管作業が続けられている。

これらの資料は、建築本体にとどまらず、家具、照明、内装から空調、衛生器具、造園にまで及んでおり、社会に公開するべく美術工芸資料館と「村野藤吾の設計研究会」（仮称）の共催で第1回の展覧会などが企画された。

■展覧会
日　時　1999年11月8日(月)～11月19日(金)
　　10：00～16：00　土曜・日曜は休館
場　所　京都工芸繊維大学・美術工芸資料館
　　京都市左京区松ヶ崎
　　京都市営地下鉄・松ヶ崎駅徒歩5分
入　場　無料（申し込み不要）

■記念シンポジウム「村野藤吾の遺したもの」
日　時　1999年11月19日(金) 15：00～17：00
場　所　京都工芸繊維大学・3号館（工芸本館）1階
定　員　150名（当日先着順・無料・申し込み不要）
出席者　パネラー／石田潤一郎・竹内次男・本多友常
　　司会／岸和郎・西村征一郎

■懇親会
日　時　1999年11月19日(金) 17：30～20：00
場　所　京都工芸繊維大学・大学会館1階「アルス」
定　員　90名（先着順）
参加費　6000円（当日会場にて徴収）
申込先　開催前日までにFAXかE-mailで、氏名、所属、住所、電話番号を明記の上、下記へ。
　　「村野藤吾の設計研究会（仮称）」事務局・笠原一人（FAX075-724-7605、E-mail kasahara@dad,kit.ac.jp）

札幌国際デザイン賞「夢のある札幌をデザインする」をテーマに

札幌の夢を創造するあらゆる分野（都市計画／建築計画／環境／インダストリアル／グラフィック／クラフト／ファッションなど）のデザインを、今年も世界各地から募集している。公用語は日本語または英語。

応募資格　資格不問。個人・団体での応募可。
応募点数　制限なし。ただし未発表作品に限る。
出品書類　応募希望者は事前に、出品書類［(1)出品票、(2)デザイン・コンセプト説明書］を請求。
出品方法　2000年1月10日～1月31日に、出品先の日本通運㈱札幌西支店倉庫課（〒060-0011札幌市中央区北11条西14丁目、TEL011-717-8850）へ提出すること。
賞の種類　大賞1点賞金100万円、準大賞1点賞金50万円、佳作10点賞金各10万円、入選20点
審査委員　荒井　徹氏（札幌市立高等専門学校校長）
　　伊藤隆一／大萱昭芳／渋谷邦男／渋谷滋／中井和子の5委員
問合せ先　札幌国際デザイン賞実行委員会事務局
　　㈳北海道未来総合研究所内
　　TEL011-207-2630、FAX011-261-4882

コイズミ学生照明コンペ公募

第13回「コイズミ国際学生照明デザインコンペ」のテーマは「LIGHTING ECOLOGY 四次元の光―新しい次元を感じさせてくれるもの」。

応募資格　1999年9月1日現在在籍中の全世界の学生
登録受付　1999年9月1日～2000年1月30日
作品受付　2000年2月10日～2月20日
審　査　審査委員（栄久庵憲司/粟津潔/菊竹清訓/葉祥栄/P.ロマッツイ/A.コルテージ氏）
賞　金賞1点賞金100万円、銀賞2点各30万円、銅賞5点各10万円、佳作若干

登録・作品提出・問い合わせはコイズミ国際学生照明デザインコンペ事務局〈〒541-0051大阪市中央区備後町3-3-7、小泉産業㈱内、TEL06-6262-1369〉へ。

2005年日本国際博覧会国際アイデアコンペ入賞作品決まる

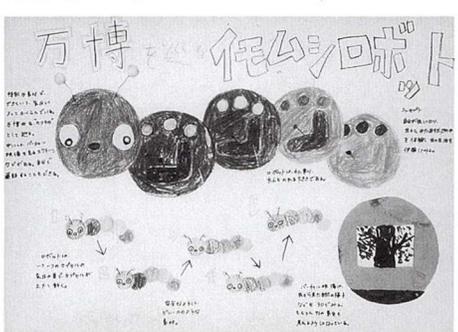
2005年、愛知県瀬戸市南東部の起伏に富んだ里山を会場に開催される日本万国博覧会は、森や自然がパビリオンの役割を果たす非建築的空間の創造など、新しい検討のもと企画がすすめられている。

その一環として国際アイデアコンペ「森の博覧会のアイデア」で15歳以下の部と一般の部に分けてアイデアを募集した。

海外30ヵ国82点を含め1955点の応募の中から、9月8日に審査（隈研吾氏ら7名）した結果、入賞22点を決定した。最優秀作品は、15歳以下の部では越智藍子さんと小西聖子さんの作品が選ばれ、一般の部では該当作品がなかった。



最優秀賞『森のブランコゆらゆら音楽会』越智藍子さん（10歳）
背もたれのあるブランコを座席とした、森の音楽会を開く



最優秀賞『イモムシロボット』小西聖子さん（13歳）
イモムシロボットを動かして、虫から見た“自然”“世の中”“未来”“過去”を体験する

基準法第86条認定基準を制定

大阪府は、改正された建築基準法に基づき法第86条の認定基準を平成11年9月13日に制定した。

これまでの法第86条に基づく認定は、「一団地の総合的設計制度」として、主として郊外における計画的な住宅団地の開発に対して適用されてきたが、今回の法改正により、これまでの制度に加え、市街地の環境を確保しつつ、建築物による土地の有効利用を目的として既存建築物の存在を前提に設計調整する「連担建築物設計制度」が創設された。

この「連担建築物設計制度」は、接道条件の整っていない狭小な敷地が多数存在する、密集市街地を中心とした既成市街地の整備改善などに寄与するものであり、今回、この制度を含め認定基準を改正整備した。

詳細問い合わせは、大阪府建築指導課地域指導係（TEL06-6941-0351 内線4325）へ。

国際シンポジウムー国際空港と環境・地域との共生をめざしてー

関西国際空港開港5周年記念として、国際シンポジウム（会議＋レセプション）がりんくう国際会議場で開かれる。概略は以下のとおり。

■1999年11月24日(水) 10：00〜16：45

• 基調講演「関西国際空港における環境保全のあゆみ」／高松武一郎氏（京都大学名誉教授）

• 特別講演「世界都市関西をめざして一空港と地域社会の共生」／小松左京氏（作家）

■1999年11月25日(木) 9：30〜

• セッション1「環境にやさしい空港をめざして」

——シャルル・ド・ゴール、バンクーバー、マンチェスター空港担当者による事例報告

——上記事例報告者4名、環境庁担当者、桑野園子氏（大阪大学教授）をパネリストに、吉川和広氏（関西大学教授）のコーディネートでディスカッション

• セッション2「国際空港と地域社会の共生をめざして」——ジョナサン・スミス氏、劉武君氏、ウエルナー・トゥェペル氏、今野修平氏（大阪産業大学名誉教授）による事例報告

——上記4名の事例報告者、自治体関係者、エッセイスト・高木美千子氏をパネリストに、川島哲郎氏（大阪市立大学名誉教授）のコーディネートで討議

会　場　会議／りんくう国際会議場
　　レセプション／ホテル日航関西空港

参加費　シンポジウム／5000円
　　レセプション／10000円

詳細は、国際シンポジウム担当（㈱インターグループ内、TEL06-6372-3053、FAX06-6376-2362）へ。

「住まいのなるほどセミナー」市民を対象に開講

11月6日にオープンした大阪市立住まい情報センターで「住まいのなるほどセミナー」が毎月開かれる。

《1テーマ講座》

「人にやさしい住まい〜高齢者の生活環境から考える」

日時　1999年11月27日(土) 13：30〜16：00

場所　大阪市立住まい情報センター5F研修室
　　大阪市北区天神橋6-4-20（地下鉄・天神橋筋六丁目下車すぐ）TEL06-6242-1160

講師　大阪府建築士会女性委員会・シルバーライフ研究会メンバー

会費　1000円（テキスト代実費）

定員　50名（先着順）

《連続講座》

「建築家とつくる住まい入門 第1章〜第3章」
—住まいづくりのプロセスと見逃せないポイントを、建築士がわかりやすく解説

日時　1999年12月18日(土)、2000年1月22日(土)、2000年2月26日(土)、2000年3月18日(土)
　　14：00〜16：00

場所　大阪市立住まい情報センター5F研修室

講師　日本建築家協会近畿支部住宅部会メンバー

会費　1000円（テキスト代実費・毎回必要）

定員　50名（1回から連続受講、先着順）

《1テーマ講座》は11月19日(金)までに、《連続講座》は12月10日(金)までに、ハガキかFAXに住所・氏名・年齢・電話番号・講座名を明記して下記へ申し込む。

大阪市立住まい情報センター（FAX06-6354-8601、〒530-0041 大阪市北区天神橋6-4-20）講座係

ロレアル賞連続ワークショップ'99ー色をワークするー

科学・技術・芸術・デザインなど各分野の専門家が様々な切り口で討論し実演する「色」に関するワークショップ。モデレーターは小林康夫・東京大学教授、永山国昭・生理学研究所教授。

①「生物が見る色の世界ー眼の不思議」

とき　1999年11月8日(月) 18：30〜20：30

ひと　蟻川謙太郎氏（横浜市立大学理学部助教授）
　　臼井支朗氏（豊橋技術科学大学工学部教授）

②「花の色をつくる・花の色をアレンジする」

とき　1999年11月15日(月) 18：30〜20：30

ひと　斎藤規夫氏（明治学院大学一般教育部教授）
　　ハンス・ダーメン氏（フラワー・デザイナー）

③「ルネッサンスの光と色ー科学と芸術の出会い」

とき　1999年11月30日(火) 18：30〜20：30

ひと　マーティン・ケンプ氏（オックスフォード大学美術史学部教授）
　　高階秀爾氏（国立西洋美術館館長）

④「色を染め、色を織る心ーテキスタイル・アートの現在」

とき　1999年12月13日(月) 18：30〜20：30

ひと　辻けい氏（テキスタイル・アーティスト）
　　福本潮子氏（テキスタイル・アーティスト）

⑤「心に働きかける色ーカラーセラピーと"青の美術史"」

とき　1999年12月14日(火) 18：30〜20：30

ひと　村山久美子氏（女子美術大学教授）
　　小林康夫氏（東京大学教授）

いずれも、会場は東京デザインセンター・地下2階ガレリアホール（東京都品川区東五反田5-25-19、TEL03-3445-1124）。参加費は一般各回1000円（5回分3000円）・学生無料。参加希望者は希望回（or 5回分）・氏名・会社（or 学校名）・部署（or 学科）・住所・TEL・FAXを明記のうえ、e-mailかFAXで下記へ。

ロレアル アーツ アンド サイエンス ファンデーション
e-mail:lasf@gol.com, FAX0298-47-7685

'99建築プロフェッショナルセミナー

■第5回「ITとユニバーサルデザイン」

講師　川崎和男氏（医学博士・名古屋市立大学芸術工学部教授・デザインディレクター）

日時　1999年11月25日(木) 15：00〜17：30

会場　大阪市立住まい情報センター3Fホール
　　大阪市北区天神橋6-4-20

■第6回「身近な環境を考える」

講師　石山修武氏（建築家・早稲田大学理工学部教授）

日時　2000年1月26日(水) 15：00〜17：30

会場　大阪市立住まい情報センター3Fホール

いずれも定員200名。参加無料。11月12日までにハガキかFAXに郵便番号・住所（勤務先名）・氏名（フリガナ）・電話番号（FAX）・「建築と社会」と明記し、大阪ガスインテリアデザインスクール・建築プロフェッショナルセミナー係（〒541-0051 大阪市中央区備後町3-6-14、TEL06-6262-4089、FAX06-6262-7202）へ。

建築研究所秋季講演会

会場　有楽町ー朝日ホール（有楽町マリオン11階）

入場　聴講及びテキスト代無料／参加申し込み不要

■1999年11月30日(火) 10：00〜16：00〈4テーマ〉

• 海外における最近の地震調査報告／〈講演者未定〉

• 地球環境時代の住宅づくりー最近の研究からー

①住まいづくりと健康性の課題／大澤元毅氏（建研）

②次世代省エネ基準と地域性の課題／澤地孝男氏

• パネルディスカッション「環境重視の住宅設計」

三井所清典（芝浦工業大学）、小玉祐一郎（神戸芸術工科大学）、南雄三（住宅技術評論家）の3氏。

■1999年12月1日(水) 10：00〜15：50〈5テーマ〉

• わが国の建築性能体系／平石久廣氏

• 建築基準の性能規定化

①構造分野／岡田　恒氏

②防耐火分野／遊佐秀逸氏

• 特別講演「建築・住宅の性能論、性能化について」

岡田恒男氏（日本建築学会会長）

「メディアテークがめざすもの」

2001年1月オープンに向けて建設中のせんだいメディアテーク。どのような活動で、何が生まれるのか。

日　時　1999年11月29日(月) 14：00〜18：00

パネラ　伊東豊雄氏（建築家）、桂英史氏（造形大学助教授）、アンソニー・ダン氏（ロイヤルカレッジオブアーツ）ほかを予定

会　場　東京デザインセンター　TEL03-3445-1121
　　東京都品川区東五反田5-25-19

定　員　180名（参加費は2000円）

申　込　所要事項を明記のうえ、FAXで下記へ。
　　東京デザインセンター「建築セミナー」係
　　FAX03-3445-1125

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社　☎06—6448—5851(代)　名古屋支店　☎052—211—1535(代)　中国支店　☎082—247—5541
九州支店　☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06—6466—2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9—3　電 0720—49—2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市中央区北浜2—2—21　電話 06(6202)7554
本　社　東京都千代田区有楽町1—4—1　電話 03(3502)6111(大代)
支　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(6458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(6352)1131(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話(3667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530—0047
TEL(06)6312—4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社三晃空調

本　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長 依藤孝行

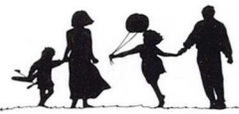
青葉印刷株式会社
〒534-0027　大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪 (06) 6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪 (06) 6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話 (03) 5689—2351代表

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530-0017大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL06(6313)1101
創業1919

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士
本　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長　上田正雄
本　社　大阪市中央区北浜3－6－13（日土地淀屋橋ビル）
電　話　０６（６２０５）３６７１（代）
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　０３（３６６６）１４７８（代）
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

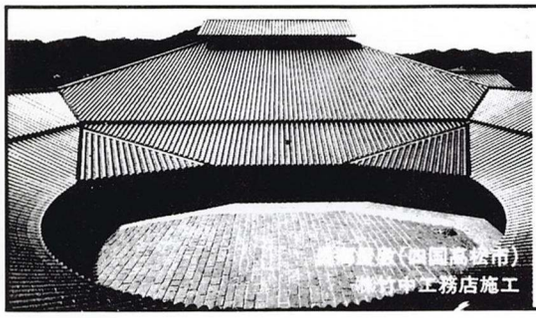
電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長　伊藤義信
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(6202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
あたたかみにあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。
住友電設株式会社
大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(6792)5858　FAX06(6792)2810

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

新鮮
情報処理／編集・企画／印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。
NP
日本電植株式会社
〒530-0043　大阪市北区天満2丁目5番15号
TEL.06(6352)7502㈹　FAX.06(6355)2714



ナニワ瓦株式会社
〒556-0024 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 六五六一～七四五四
六五六一～七四一六
ファックス
あらゆる屋根工事の相談は、

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-6202-3294
Master Builders Technologies

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綾野（0772）2−2220
舞鶴（0773）76−0133

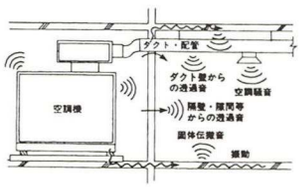
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332−6861
TEL 東京（03）3272−8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443−6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252−6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83−2381
TEL 大阪（06）6877−1581

（（プロのノウハウ））



建築と音のトラブル

第一線の技術研究者がわかりやすく鋭く解説

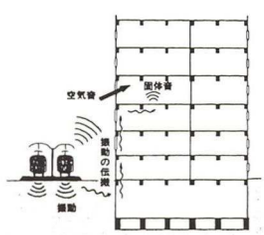


企画・日本建築協会

田野正典、中川清、縄岡好人、平松友孝著
（鹿島建設）　（清水建設）　（大林組）　（大成建設）

四六・224頁（2色刷）・2300円＋税　ISBN 4-7615-2197-X

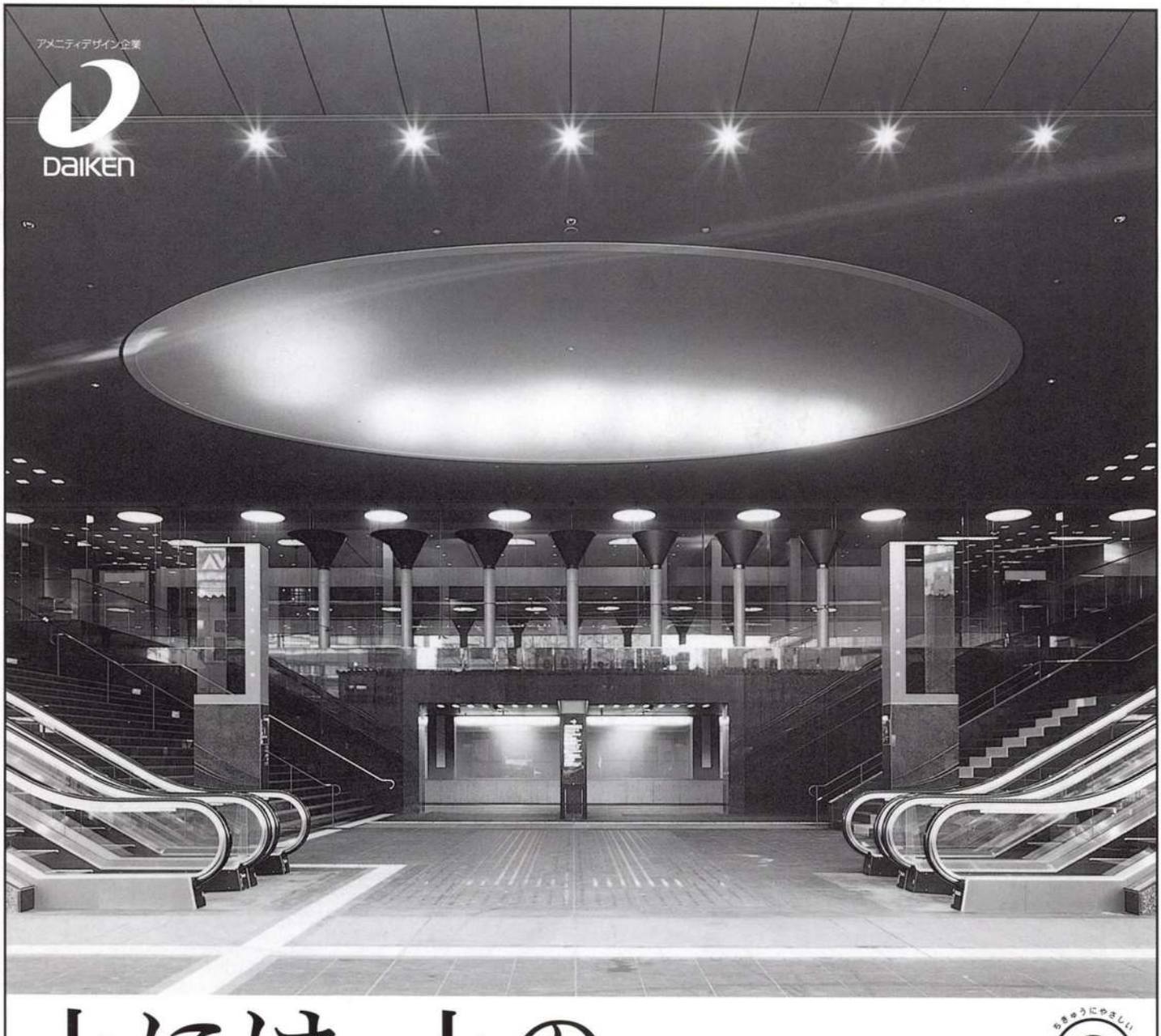
生活騒音、建物の構造や配置プランによる騒音、設備機器からの騒音振動、配管の伝搬経路の騒音など、建物に関わる様々な音のトラブルの解決方法をゼネコンの第一線の技術研究者が解説。約50の重要事例について具体的な内容→原因→対策→解説→ヒントとして整理し、建築設計や施工監理の実務担当者に役立つよう構成した。



学芸出版社

京都市下京区木津屋橋通
西洞院東入　〒600-8216
tel 075-343-0811
fax 075-343-0810

アメニティデザイン企業
DAIKEN



上には、上の。

ちきゅうにやさしい
資源の有効利用

都市空間を上から見守る天井材は、上をゆく機能が必要です。
《ダイロートン》は、時代が求めるニーズを
常に先取りしてきた天井材のロングセラー。
人や環境にやさしいゼロアスベスト＆低ホルムアルデヒドはもちろん、
多彩な工法、豊かなデザイン性、高いコストパフォーマンスを実現。
性能・デザイン・コストで選ぶなら、ワンランク上の《ダイロートン》です。

防音・防火・防湿・断熱。その上ゼロアスベストの安心。
ダイロートン

大建工業株式会社 本社／〒530-8210 大阪市北区堂島1丁目6番20号 堂島アバンザ22階 TEL. 06(6452)6000 ●http://www.daiken.co.jp

Vol.80 通巻932号 平成11年11月1日発行 毎月1回1日発行 昭和24年3月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182
社団法人 日本建築協会 〒530-0004 大阪市北区堂島1-6-20 電話大阪06(6347)0605 FAX06(6347)0694 振替口座00970-1-44725
定価1,200円（●本体1,143円●消費税57円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収

雑誌 03379-11